

令和7年度第1回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○令和7年度 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿	P 1
○鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会設置要綱	P 2
○【資料1】令和6年度第3回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要	P 3
○【資料2】鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（R7年度）	P 5
○【資料3】鈴鹿亀山地域の県立高等学校の特色	P 9
○【資料4】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）卒業生の進路状況	P 17
○【資料5】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等	P 18
○【資料6】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への入学者選抜の状況	P 20
○【資料7】令和7年度の協議について	P 22
○【資料8】鈴鹿亀山地域中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）	P 23
○【資料9】鈴鹿亀山地域中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移と予測	P 24
○【資料10】令和22年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の 総学級数と当協議会の協議について	P 25
○【資料11】鈴鹿亀山地域の中学校卒業生進路先の推移	P 26
○【資料12】鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への入学状況	P 27
○【資料13】（再掲）：鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について	P 28
○【資料14】学校規模と教育環境について	P 35
○【資料15】鈴鹿亀山地域における工業の学びに係る状況について	P 37
○【資料16】これまでの協議について	P 39
○【資料17】今後の鈴鹿亀山地域における高等学校の 学びと配置のあり方について	P 43

令和7年度 鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	区 分	所 属 等	名 前	新・継
1	学識経験者	三重大学教育学部 准教授	市川 俊輔	継
2	地域有識者	鈴鹿商工会議所 専務理事	内藤 俊樹	継
3		亀山商工会議所 参与	山本 安夫	継
4	市町教育委員会 教育長	鈴鹿市教育委員会 教育長	廣田 隆延	継
5		亀山市教育委員会 教育長	中原 博	継
6	県立高等学校長代表	県立白子高等学校 校長	水谷 正樹	新
7	小中学校長代表	鈴鹿市立平田野中学校 校長	辻井 康博	新
8	小中学校P T A代表	鈴鹿市P T A連合会 代表 (鈴鹿市立白子中学校P T A 会長)	村田 多恵子	継
9		亀山市P T A連合会 代表 (亀山市立中部中学校P T A 会長)	中根 直人	新
10	高等学校P T A代表	高等学校P T A連合会 代表 (県立神戸高等学校P T A会長)	市川 佳奈	新
11	小中学校教職員代表	鈴鹿市立庄内小学校 教諭	谷口 哲也	継
12	高等学校教職員代表	県立飯野高等学校 教諭	和田 馨	継

鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

（設 置）

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、鈴鹿亀山地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- （1）今後の鈴鹿亀山地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- （2）鈴鹿亀山地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- （3）施設・設備に関する事
- （4）その他検討を要する事

（組 織）

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（調査委員会）

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

（会 議）

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は令和5年12月1日から施行する。

令和6年度第3回鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和7年2月18日（火）19時00分から21時00分まで

2 場所 三重県鈴鹿庁舎 46会議室

3 概要

15年先までの当地域の中学校卒業者数の減少の状況や、中学生と保護者へのアンケート結果をふまえながら、当地域における高校の学びと配置のあり方の方向性や、令和10年度以降に想定される学級減への具体的な対応について協議を行いました。

主な意見は次のとおりです。

《当地域における高校の学びと配置のあり方の方向性について》

- 大学進学ニーズに応える一定規模の普通科高校については、検討資料1に「1学年8学級が理想であり、少なくとも6学級はあったほうがよい」ということを追加してはどうか。
- 通学時間について、アンケート結果をふまえて、具体的に「概ね90分以内、できれば60分以内が望ましい」ということを検討資料1に追加してはどうか。
- 普通科のコースの充実では、専門学科の学びと比べ、どうしても実習をはじめとした専門的な授業の時間が少なくなる。就職後、すぐに役立つスキルを身につけてもらうために、より専門性の高い学びが行われる職業系専門学科を設置してほしい。
- 小中学校が35人学級となる中、高校においても35人学級が実現できれば、学級数も教員数も増やすことができる。根本的な解決にはならないかもしれないが、県独自で実施することはできないか。
⇒（事務局）高校の教職員数は、国の法律により1学級40人を基準として定められている。県教育委員会としても、学級編制標準の引下げを国に要望しているところである。
- 鈴鹿市と亀山市のコミュニティバスの連携が進めば、通学だけでなく地域経済の活性化にもつながることから、県と市の交通行政が協力して進めていく必要がある。
- 鈴鹿亀山間の移動については、民間企業が運行する路線バスよりもコミュニティバスが現実的であるが、一般的にコミュニティバスは、各地方自治体が住民サービスとして運行している事例が多いため、県内でも市町を越えた連携はあまりとられていないようだ。

《令和10年度以降に想定される学級減への具体的な対応について》

- 他地域への流出を食い止めるためにも、まず当地域に設置されていない工業などの職業系専門学科の設置を検討したほうがよいのではないかと。
- 工業をはじめとする専門性の高い学びの充実は必要であり、普通科におけるコースの設置や他校との連携、資格取得の取組等、さまざまな方策を検討してほしい。

- 工業系に限らず、他にも希望者が多い医療系などの学びの充実についても検討してもらいたい。
- 中学生のニーズから、当地域に大学進学に対応する一定規模の普通科高校は必要であるが、過去の生徒急増期に普通科の定員を大きく増やしたことを考え、普通科を中心に定員を減らし、多様な子どもたちの学びを保障しつつ、学びを集約していく方向になるのではないかな。
- 大学進学へのニーズに対応する普通科高校は1学年あたり8学級、最低でも6学級程度の規模は必要であり、それを維持するために統合が必要というのであれば、ぜひ校舎を新築し、魅力のある学校をつくってほしい。
- 将来、地元で活躍する人材を育てるという観点から、当地域の普通科において、公務員や教員、医療系の進学をめざす学びを展開するという方向性も考えられる。
- 参考資料をみると、部活動の充実という視点では、1学年4学級以上の規模が必要である。
- 現在、県内全域から生徒が入学している特色のある学科は、今後も当地域に残したほうがよい。
- 小中学校を含め外国につながるのある子どもたちに関わる教育は、当地域の強みであり、こうした子どもたちが他地域からも集まるような高校をつくるのも一つのアイデアである。
- 今後、統合を行う際には、今ある学びをそのまま残すのではなく、よりよい形で残すという発想が大切であり、時代にあわせて学びを充実させたり、新しい設備等に予算を投入したりして、魅力化を図ってほしい。
- 不登校など学校に行きづらい子どもたちが増えている中で、多様な学びを保障するためにも、定時制・通信制のあり方や、学びの多様化学校のような学校の設置を考えてもよいのではないかな。
- これまで小規模校が果たしてきた役割は大きく、学級数が減ったとしてもその機能は残していく必要がある。
- 15年先に1学年の総学級数が13～15学級となることが想定される中、普通科の一定規模の維持や多様な学びの選択肢の維持、部活動の活性化などを考えると、当地域の高校は2～3校程度に集約されるのではないかな。今後、学校数と学級数のバランスに留意して協議を進めていく必要がある。
- 通学時間は子どもたちにとって重要であり、鉄道など公共交通機関の利便性を考えると、どの場所に集約していくとよいのかは見えてくるのではないかな。
- 鈴鹿市と亀山市間の交通機関の利便性を考えると、亀山市内に1校は残してもらえるとありがたい。
- 学校を維持・充実させるとしても、統合するとしてもお金がかかる。数年後のことを決めていく必要があるのに、予算が未定では方向性が定まらないのではないかな。
⇒（事務局）当地域でどのような高校教育を実現させたいかがまずあって、それを実現するために予算がつくという順番になるので、協議会での意見は予算編成上重要である。

鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（R7年度）

1. 全日制課程

県立	・ 神戸高等学校（鈴鹿市）	普通科(200)、理数科(80)
	・ 飯野高等学校（鈴鹿市）	応用デザイン科(80)、 英語コミュニケーション科(80)
	・ 白子高等学校（鈴鹿市）	普通科(160)、文化教養(吹奏楽)コース(40)、 生活創造科(40)
	・ 石薬師高等学校（鈴鹿市）	普通科(80)
	・ 稲生高等学校（鈴鹿市）	普通科(120)、体育科(40)
私立	・ 亀山高等学校（亀山市）	普通科(80)、システムメディア科(80)、 総合生活科(40)
	・ 鈴鹿高等学校（鈴鹿市）	普通科(470)
	（鈴鹿中等教育学校後期課程含む）	特進コース、探究コース、総合コース 中等教育学校後期課程(医進・選抜コース、特進コース)

2. 定時制課程

県立	・ 飯野高等学校（鈴鹿市）	普通科(80)
----	---------------	---------

3. 通信制課程

私立	・ 徳風高等学校（亀山市）	普通科(240) ※技能連携制度あり 総合コース、ドッグケアコース、パソコンコース 日本語コース、土日コース、平日サートコース
----	---------------	---

4. 高等専門学校

国立	・ 鈴鹿工業高等専門学校（鈴鹿市）	機械工学科(40)、電気電子工学科(40)、 電子情報工学科(40)、生物応用化学科(40)、 材料工学科(40)
----	-------------------	---

○ 課程

- ・ 全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・ 定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・ 通信制：通信による教育を行う課程

○ 学科

- ・ 普通科：普通教育を主とする学科
※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科（学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など）
- ・ 専門学科：専門教育を主とする学科
【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科など職業教育を主とする学科
【普通科系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など職業系以外の専門教育を施す学科
- ・ 総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

○ 中等教育学校

- 一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの

○ 技能連携制度

- 通信制または定時制高校に在籍する生徒が、指定された技能教育施設で教育を受けている場合、そこでの学習を在籍校における教科の一部の履修とみなす制度

○ 高等専門学校

- 実践的・創造的技術者を養成することを目的とした5年一貫教育(商船学科は5年6か月)の高等教育機関であり、理論だけではなく実験・実習を重視した専門教育が行われている

鈴鹿亀山地域の高等学校等の学科・コースについて（令和7年度）

資料 2-②

	学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8	
全 日 制 課 程	県 立	神戸	普通科	280	【普通科】 ※2年生から文系・理系の類型に分かれる							
		飯野	普通科	160	【英語コミュニケーション科】 A（英語基礎力強化） B（ハイレベルな英語活動）							
		白子	普通科 専門学科	240	【普通科】 進学コース 教養コース							
		石薬師	普通科	80	【普通科】 スタンダード類型 アカデミック類型							
		稲生	普通科	160	【普通科】 アドバンスコース・食物調理コース・情報コース 自動車工業コース・ビジネスコース・介護福祉コース							
		亀山	普通科 専門学科	200	【普通科】 アドバンス系列 テクノロジー系列							
		鈴鹿	普通科	470	【システムメディア科】 ITシステム系列 デザイン系列 情報ビジネス系列							
	私 立	普通科（特進コース・探究コース・総合コース）※募集定員には中等教育学校後期課程（医進・選抜コース/特進コース）も含む			【総合生活科】 食物文化系列 人間福祉系列 幼児教育系列							

全28学級
普通科※ 24
専門学科 4
（家庭2）
（情報2）
総合学科 0

全28学級
普通科※ 24
専門学科 4
(家庭2)
(情報2)
総合学科 0

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

- 定時制課程 県立 飯野 80
- 通信制課程 私立 徳風 240
- 高等専門学校 国立 鈴鹿工業高専 200
- 普通科 普通科
- 普通科（総合コース、ドッグケアコース、パソコンコース、日本語コース、土日コース、平日サポートコース） ※技能連携あり
- 機械工学科（40）、電気電子工学科（40）、電子情報工学科（40）、生物応用化学科（40）、材料工学科（40）

【参考】四日市地域の高等学校の学科・コースについて（令和7年度）

資料 2-③

	学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
全 日 制 課 程	県 立	四日市	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	国際科学コース
		四日市南	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	数理科学コース	数理科学コース
		四日市西	200	普通科	普通科	普通科	比較文化・歴史コース	数理情報コース			
		朝明	160	普通科	普通科	普通科	ふくし科				
		四日市四郷	160	普通科	普通科	普通科	スポーツ科学コース				
		四日市工業	280	機械科	電子機械科	電気科	電子工学科	建築科	物質工学科	自動車科	
		四日市中央工業	200	機械科	電気科	化学工学科	都市工学科	設備システム科			
		四日市商業	240	商業科	商業科	商業科	商業科	商業科	情報マネジメント科		
		四日市農芸	200	農業科学科	食品科学科	環境造園科	生活文化科	生活文化科			
		菰野	160	普通科	普通科	普通科	普通科				
		川越	280	探究科	探究科	探究科	探究科	探究科	国際探究科	国際探究科	
私 立	暁	普通科	430	普通科（Ⅰ類進学コース、Ⅱ類進学コース、Ⅱ類英進コース、6年制）							
	四日市リノール学院	普通科	140								
	海星	普通科	290	普通科（国際数理コース、進学特別コース、進学コース、6年制）、ダブルディプロマ科							

全63学級
普通科※ 39
専門学科 24
(工業 12)
(商業 6)
(農業 3)
(家庭 2)
(福祉 1)
総合学科 0

※大学科の「普通科」には、普通科系専門学科を含む

〇定時制課程	県立	四日市工業	80	機械交通工学科（40）、住システム工学科（40）
〇通信制課程	県立	北星	130	普通科（昼間部）（40）、情報ビジネス科（昼間部）（40）、普通科（夜間部）（40）、秋期入学（3学科共通）（10）
	県立	北星	300	普通科（240）、秋期入学（普通科）（60）
	私立	四日市リノール学院	60	普通科
	私立	大橋学園	255	普通科（全日コース、医療コース、土曜コース） ※技能連携あり

【参考】津地域の高等学校の学科・コースについて（令和7年度）

資料2-④

	学校名	大学科※	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
全 日 制 課 程	津	普通科	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
	津西	普通科	320	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学科	国際科学科
	津商業	専門学科	240	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	ビジネス科	情報システム科		
	津東	普通科	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科		
	津工業	専門学科	240	機械科	機械科	機械科	電気科	電子科	建設工学科		
	久居	普通科	200	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	久居農林	専門学科	240	生物生産科	生物資源科	環境情報科	環境土木科	生活デザイン科	生活デザイン科		
	白山	普通科 専門学科	80	普通科	情報 コミュニケーション科						
	高田	普通科	560	普通科（Ⅱ類特別選抜クラス、Ⅱ類進学クラス、Ⅰ類進学クラス、6年制）							
	セントレジャー女子学園	普通科	125	普通科（スーパーアドバンスコース、アドバンスコース）							

1,880

全47学級
普通科※28
専門学科19
(工業6)
(商業7)
(農業4)
(家庭2)
総合学科0

※大学の「普通科」には、普通科系専門学科を含む
総合学科（午前の部）（40）、総合学科（午後の部）（40）、総合学科（夜間部）（40）
普通科（全日型コース、土曜コース、フレックスコース）

〇定時制課程 県立 みえ夢学園 120
〇通信制課程 私立 一志学園 40

令和 7 年度 神戸高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 不断の進化を続ける伝統ある進学校
- 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校

2 学校の特色（理数科 2 学級 + 普通科 5 学級）

大正 9（1920）年に創立され、本年度 105 年目を迎えます。卒業生は 4 万人弱になり各界で活躍されています。生徒は開学当初からの校訓「質実剛健」のもと、誠実に心身ともに健やかで逞しく学業に励んでいます。

（1）「自らを知り、自分の目標に向かって挑戦し続け、社会に貢献できる生徒」の育成

自分自身を知り、自らの目標を見定め、如何なる状況においても諦めず努力し続ける力を身につけることをめざしています。答えのない課題に粘り強く取り組み、仲間と切磋琢磨しながら、地域の大人に学び、社会のために行動できる力の育成をめざす教育活動を行っています。

（2）地域とともに「神高生（かんこうせい）」

地名＝校名ということもあり、鈴鹿市から 70 % の生徒が通学しています。「神高生（かんこうせい）」と親しまれ、祖父母から 3 代、兄弟姉妹も神高生という生徒も少なくありません。

（3）進学率

90 % 近い生徒が四年制大学へ進学しています。国公立大学へは 76 名が合格し、私立大学へはのべ 839 名の合格者を出しています。（令和 7 年度入試）

（4）神戸高校は挑戦する生徒をサポートしています

①部活動

13 の運動部と 14 の文化部があります。今年度は、山岳部・水泳部・放送部・箏曲部は全国大会、陸上部、吹奏楽部（軽音楽班）は、東海大会へ出場します。

②「総合的な探究の時間」＝「課題研究」/「鈴鹿学」

普通科「総合的な探究の時間」を理数科は「課題研究」普通科は「鈴鹿学」と称しています。地元、鈴鹿の街に、高校生ならではの視点で課題を見つけ、仲間とともに調査・研究し、地域の大人に学び、解決策を模索します。

③充実した進路指導

個別面談、進路ガイダンス、大学出前授業、三重大学学部別説明会、卒業生との懇談会等、1 年次から卒業後の進路に向けて充実したサポートが受けられます。

（5）特別進学クラスの「理数科」

理数科は、昭和 44（1969）年に設置され今年で 56 年になります。前期選抜で 40 名、後期選抜で 40 名の生徒を迎えています。文系・理系の枠にとらわれず、探究心・向学心あふれる生徒の育成をめざし、理数科独自の様々なプログラムがあります。「課題研究」は、平成 22 年度より実施してきた歴史があります。入学してすぐの研修会、科独自の大学見学や他県での自然体験合宿、企業とのコラボ研修など、独自の行事が豊富です。神戸中学校での「Teaching assistant」や鈴鹿市内小中学生向け実験講座などは理数科が中心となって取り組んでいます。

令和 7 年度 飯野高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

地域から愛され信頼される学校「自分らしさが、ここにある！」

2 育みたい生徒像

- 自分と他者の違いを認め、自分を大切にし、他者を思いやることができる生徒
- 基礎基本の力を身につけ、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒
- 専門的な知識、技能の習得を通じて、自由で豊かな表現力、創造力を発揮できる生徒

3 学校の特色（応用デザイン科 2 学級 + 英語コミュニケーション科 2 学級）

(1) 応用デザイン科

- あらゆる造形表現活動を通して、自立して活動ができ、社会に貢献できる人材を育成します。
- 専門学科ならではの施設・設備を活用して、実習の時間を多く設けています。
- 1 年生、2 年生の作品展をはじめ、3 年間の総まとめとして卒業制作展を行っています。
- 多くの生徒が国公立大学をはじめとする美術・デザイン系の学校へ進学し、専門性を追求します。
- 1 年生では、デザイン・美術に関する基本的な知識と技術を習得し、造形表現活動に積極的に取り組む姿勢を身につけます。
- 2 年生では、「ビジュアルデザイン」「服飾デザイン」「美術（油彩画・日本画・彫刻）」の 3 コース 5 専攻に分かれ、各専門分野の基礎的な知識と技術を習得します。
- 3 年生では、各専門分野の知識と技術を深め、習得した知識と技術を主体的に卒業制作展の作品として結実させます。

(2) 英語コミュニケーション科

- 英語による実践的なコミュニケーション能力を養成し、ますます国際化、情報化が加速する社会に貢献できる人材を育成します。
- 専用アプリを活用したスピーキングやライティング指導をはじめ、4 技能 5 領域を伸ばすための充実した英語学習環境を整えています。
- スピーチコンテストやエッセイコンテストにおいて優秀な成績を収める他、3 年生では集大成である「英語表現演習発表会」を開催します。
- 在籍している生徒の半数以上が外国にルーツのある生徒です。ともに学校生活を送るなかで、豊かな国際感覚を身につけることができます。
- サマーセミナーや大学見学、外部講師による講演・ワークショップなど、充実した英語関連行事を行っています。
- オーストラリア姉妹校との交流や国内語学研修など、豊富な国際交流の機会を設けています。
- 日本語の支援が必要な生徒には、取り出しの授業や外国人生徒支援専門員による授業サポートおよび通訳補助などの支援を行っています。

令和 7 年度 飯野高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

地域から愛され信頼される学校「自分らしさが、ここにある！」

2 育みたい生徒像

- 自分と他者の違いを認め、自分を大切にし、他者を思いやることができる生徒
- 基礎基本の力を身につけ、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒
- あいさつをはじめ、他者と適切なコミュニケーションがとれる生徒

3 学校の特色（普通科 2 学級）

（1）教育目標

充実した多文化共生教育やキャリア教育をととして、多様なニーズを有する生徒たちが自信と誇りをもって社会で生きる力を養成し、生徒たちが将来、社会の構成員として生活し、これからの新しい社会を創造していく力を育みます。

（2）多文化共生教育を推進する特色ある教育

- 「職業基礎」や「職業一般」をととして「働く」ことについて学びます。
- 外国人生徒の理解度に合わせて、「入門日本語」および「実用日本語」を開設し、きめ細やかな日本語指導を行います。
- 「国際理解」や「スペイン語」「ポルトガル語」についても学ぶことができます。

（3）働く人などの「学びなおし」を応援する学習時間帯

自分のライフスタイルに合わせて学習できるよう、2つの学習時間帯から選ぶことで、自らのペースで基礎からじっくりと学ぶことができます。

I 部・・・15:50～19:25 II 部・・・17:35～21:10

（4）柔軟な教育システムと多様な学習形態

- 興味・関心・進路に応じた科目を選択し、自分で時間割を作ることができます。
- 他部の授業を学習するなど、さまざまな学び方により3年間で卒業することもできます。
- 二学期制で、学期ごとに単位を認定することから、9月末に卒業することもできます。

（5）充実した進路体制と学校行事

<進路体制>

就職コーディネーターと連携した進路相談・就労支援を積極的に行うとともに、職業別体験実習ガイダンスを開催します。また、進学希望者には個別指導を中心に学力の向上を図る取組を進めます。

<学校行事>

体育祭、文化祭、定時制・通信制生徒生活体験発表会・文化作品展、定時制・通信制スポーツ大会、修学旅行・遠足、新年生徒交流会などの学校行事も充実しており、年次を超えた交流をととして、楽しい学校生活を送ることができます。

令和7年度 白子高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 地域から愛され応援される、誇りを持った生徒を育てる学校
- 学力向上と進路実現を図り、自立した生徒を育てる学校
- 互いの人権を尊重し、心豊かな生徒を育てる学校

2 育みたい生徒像

- 共に支え合いながら、地域社会のために貢献できる生徒
- 自分で考え、行動し、主体的に生きることができる生徒
- お互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことができる生徒

3 学校の特色

（普通科4学級 + 普通科文化教養(吹奏楽)コース1学級 + 生活創造科1学級）
全学科共通して「総合的な探究の時間」を活用し、①自分自身探究、②興味関心探究、③課題探究に取り組みます。

(1) 教育コンセプト

本校では『自己肯定感を育み、人格形成を重視した学校づくり』をめざし、『創造』の成果を『奉仕』に活かし、『奉仕』の中で『規律』を学ぶ、『規律』を持って新しい『創造』に向かうという教育コンセプトを掲げています。

(2) 学科の特徴

<普通科>

堅い基礎・基本が生み出す、丁寧な指導・支援により確かな学力をつけ、次のステージへとつなげます。2年生では、「進学」「教養」の2コースに分かれ学習し、3年次には、さらに普通科ならではの多様な履修科目を探究的に学びます。

進路は、就職・専門学校進学・大学(文系・理系)・短大進学・看護医療系進学と多様な希望に対応します。地元へ就職・進学する生徒も多く、地域を支える人材を育成します。

<普通科文化教養(吹奏楽)コース>

県内唯一のコースとして、音楽の専門的な技術(器楽)を習得できる授業と教諭・講師陣(プロのマンツーマンレッスン)が充実しています。3年間を通して音楽の基礎、基本を学べます。また、授業の一環で成果発表や地域交流・地域での演奏に取り組み、豊かな人間性を身につけます。進路は、普通科の1つコースとして音楽系以外にも多様な希望に対応します。

<生活創造科>

家庭に関する知識や技術・マナーを学習し、心豊かなライフスタイルを創造する力を身につけます。2年生からは「食彩」「服飾」の2コースに分かれて学習し、専門性を追求するとともに、家庭クラブを中心に地域交流やボランティア活動に全学年で取り組み実践力を高めます。また、県内外の専門学校の先生や地域のプロフェッショナルを招いての特別講義も多く行っています。さらに、地元企業との連携によるイベントへの参加により創造力の向上を図ります。

(3) 部活動

運動系は10部が活動しており、中でも卓球部男子は県総体6連覇、卓球部女子は県総体30連覇しており、全国高校総体優勝をめざして取り組んでいます。

文化系は13部が活動しており、中でも吹奏楽部は、毎年吹奏楽コンクール東海大会に出場し、過去には全国大会に6回出場しています。

令和7年度 稲生高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 学校・家庭・地域の連携のもと「社会に役立つ人材の育成」に取り組む学校
～知・徳・体の調和がとれた教育実践をとおして～

2 学校の特色（普通科3学級 + 体育科1学級）

◎普通科

2年生より、生徒の興味・関心に合わせて学習できる6つのコースから選択して取り組みます。

○「アドバンスコース（5教科の多様な学び）」

- ・国語、社会（地理歴史・公民）、数学、理科、英語の5教科の授業を通して、幅広い教養を身につけます。

○「食物調理コース（家庭科の授業）」

- ・食文化や食品、調理についての専門的な知識を学ぶとともに、調理実習や実験等をとおして、計画的に考え自ら行動する力を身につけ、食物調理技術検定の取得をめざし、食物に関する知識や技術を深めます。

○「情報コース（情報科の授業）」

- ・コンピュータの知識、技術、情報モラルを学び、正しく情報を活用できる力とともに、コンピュータに関する検定取得をめざし、実社会で生きる力を身につけていきます。

○「自動車工業コース（工業科の授業）」

- ・エンジン分解・組立実習や自動車の原理・機構、基本的な金属加工実習や計測・工具の扱い方を学びます。学校近隣の企業での実習や職業訓練センターでの学習を通して、最先端のものづくりについて学び、職業人としての意識を高めます。

○「ビジネスコース（商業科の授業）」

- ・技能やマナー、簿記会計、情報処理等の学習をとおしてビジネスシーンにおいて必要とされる様々な力を養い、ビジネスの活動において実践的な対応力を身につけます。

○「介護福祉コース（福祉科の授業）」

- ・2年間で「介護職員初任者研修課程」に取り組み、介護用ベッドや車いすなどを使った校内実習や、学校近隣の福祉施設での実習を行います。様々な人々と交流し、福祉についての専門的な知識や技能を身につけます。

◎体育科

全天候型400mトラックや専用グラウンドを備えており、アスリートの競技力向上を目指した幅広い学びと目標達成の支援が可能です。さらに、スポーツを通じてコミュニケーション能力を育成し、地域の小中学生への出前授業や鈴鹿医療科学大学との連携授業を通じて、実践的な学びや知識・技術を習得する機会を提供しています。これらの取組を通じて、社会で活躍する人材の育成をめざしています。

（主な行事）キャンプ実習、スノーボード実習、水泳実習など。

稲生高校は、基礎・基本の学習を重視し、ICT機器を活用したわかりやすい授業や生徒が主体的に活動する授業を導入しています。多くの生徒が「勉強が苦手だったけど、わかるようになって楽しい」と感じています。

進路面では、鈴鹿市や亀山市、津市のものづくりの会社を中心に地域の産業界へ就職した卒業生が多く活躍しています。さらに、大学や短期大学、専門学校に進学する生徒もいます。どちらの進路にも対応するため、生徒一人ひとりが一生懸命取り組むことで、希望する進路に近づける学校です。

令和 7 年度 石薬師高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校
- 地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校
- 笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校

2 育みたい生徒像

- 基礎基本の学力を身につけ、主体的に学習に取り組み、生涯にわたり学ぶ力を持った生徒
- キャリア教育を通して自己の進路について考え、社会の一員として貢献できる力を持った生徒
- 豊かな人間性を身につけ、積極的にいじめ防止に向けて行動できる力を持った生徒

3 学校の特色（普通科 2 学級）

(1) 学校概要

- 鈴鹿市の高台に位置し、晴れた日には東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈を望む風光明媚な環境にあります。
- 自主、創造、敬愛の精神を大切にし、就職をめざす生徒、進学をめざす生徒に対してきめ細かくサポートしています。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、就職実現コーディネーター、スクールサポートスタッフなどの専門性の高いスタッフが定期的に来校し、多面的な支援体制を構築しています。
- 杉の子特別支援学校石薬師分校と校舎を共用していることもあり、合同避難訓練を実施したり、生徒会を中心に生徒間の交流をしたりしています。

(2) 学習指導

- 国語・数学・英語では習熟度別授業や TT、少人数授業を行っており、高校入学までの学習内容の確認を含め、基礎・基本を大切に「わかる授業」を展開しています。
- 1 年生は全員共通の科目を学び、2 年生より 2 つの類型に分かれて学びます。

【スタンダード類型】

就職など社会で活躍するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけ、仕事や実生活に役立つ情報・商業・家庭等の知識や技術を学びます。将来、地域の即戦力として活躍することをめざします。

【アカデミック類型】

4 年制大学や短期大学・専門学校等に進学するために必要な学習を行いながら、これからの社会に参画するための思考力や行動力を高めます。進学を中心に幅広い進路に対応します。

(3) 進路指導

- 本校独自の「サクラサク・プラン」により、入学時から系統的なキャリア教育を実践し、就職実現コーディネーター及び商工会議所やハローワーク等の関係機関と連携を図りながらきめ細やかな進路指導を行っています。
- 個別面談を定期的実施し、3 年間を通して自分の進路の実現に向けてじっくりと考え、社会に貢献する力を高めていけるよう取り組んでいます。
- 事業所・上級学校見学会（1 年生）、インターンシップ（2 年生）、地元企業による説明会や面接指導（3 年生）、など体験的な進路指導に力を入れています。

令和 7 年度 亀山高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○校訓「自主自律」の精神のもと、自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育て、明日の地域社会を担う人材を育む亀高

2 育みたい生徒像

○自他を尊重するとともに、豊かな人間性を身につけ、社会の一員として責任感を持って貢献することができる亀高生

○時と場に応じた挨拶・服装・対話等が、自主的に情報発信できる亀高生

○自分の進路についてしっかりと考え、その実現に向けて主体的に学習に取り組むことができる亀高生

3 学校の特色（普通科 2 学級＋システムメディア科 2 学級＋総合生活科 1 学級）

亀山高校は創立 105 年目を迎えた伝統校で、亀山市唯一の県立高校です。そのため地元からの期待も大きく、地域連携による教育活動を多岐に展開しています。

中長期的目標に「①地元を支え、地元で活躍できる生徒を育成するため、これまでの伝統や学科の枠にとらわれない新しい亀山高校を創出する、②地域や大学と連携した探究活動を軸とする継続的・計画的な学習ができるカリキュラムの開発、③生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、多様化する生徒の進路希望を実現」を掲げ、生徒や地域からの要望に応えられるよう教育活動に取り組んでいます。

(1) 特色ある 3 つの学科

○普通科：生徒のニーズにあわせて、2 年次からは「アドバンス(特別進学)」「セレクション(就職・進学)」の 2 系列を 3 学級の少人数で展開し、さらに選択科目による少人数講座でよりきめ細かな学習指導を行い、進路実現をサポートしています。

○システムメディア科：三重県で唯一の情報に関する専門学科で、2 年生から「IT システム」「メディアデザイン」「情報ビジネス」の 3 系列に分かれ、各系列の専門科目を学習してスペシャリストを育成しています。

○総合生活科：家庭に関する専門学科で、2 年生からは「幼児教育」「食物文化」「人間福祉」の 3 系列に分かれ、外部講師による授業や校内外における実習など、体験的な学習をとおして、それぞれの系列において専門性の高い学習を展開しています。

(2) 地域連携による教育活動

○普通科では、地元企業等の協力を得て、2 年生が 5 日間のインターンシップに取り組み、職業観や勤労観を踏まえた進路実現に繋がっています。

○システムメディア科「課題研究」では、近隣の幼稚園と小学校でのデジタル知育ゲームやプログラミングをとおした児童生徒との交流学習や地域に向けた亀山市民パソコン講座の開催などの取組があります。また広報制作講座では、地域団体からポスター制作の依頼を受けて納品しています。

○総合生活科では、保育園・幼稚園、飲食店、高齢者・障害者施設等で実習を行ったり、和菓子店、社会福祉協議会等の方から講習を受けたりして専門性を高めています。また、課題研究では、グループのテーマ・課題を解決するために、亀山市等関係者の協力を得て調査研究を進めています。他にも小学校出前授業、図書館での絵本読み聞かせ、老人ホーム訪問など、充実した教育活動を行っています。

○インターアクト部では亀山市主催の小学生サマーキャンプにリーダーとして参加したり、地域の方々の協力を得て「関宿スイーツマップ」を作成したりして社会貢献しています。フレンドリークラブでは、亀山市立 3 中学校生徒との人権研究発表会を開催し、情報交流を図っています。

杉の子特別支援学校

1 概要

特別支援学校は、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の障がいを対象としており、それぞれの教育部門に対応した専門的な教育を行っています。

杉の子特別支援学校では、鈴鹿市および亀山市を通学範囲として、知的障がい、肢体不自由の教育部門を設置しています。

本校においては、肢体不自由の教育部門（小学部、中学部、高等部）と、知的障がいの教育部門の小学部を、石薬師分校においては、知的障がいの教育部門の中学部と高等部を設置しています。

昭和 39 年に鈴鹿病院内で鈴鹿市の小中学校教員が出張授業を開始したことに端を発しますが、児童生徒数の増加にともない、平成 22 年には県立石薬師高等学校内に石薬師分校を開校し、高等部知的障がい教育部門が移転、さらに、令和 5 年に中学部知的障がい教育部門が移転し、現在に至ります。

石薬師分校においては、隣接する石薬師高等学校と、生徒会役員の交流や、対面式、文化祭の相互交流、合同避難訓練等に取り組んでいます。

2 教育目標

○学校教育目標

- ・一人ひとりの児童生徒の可能性を引き出し、生きる力を育成する。

○目指す学校像

- ・一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。

○育みたい子どもの姿

- ・自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども
- ・自己肯定感と他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども

3 児童生徒

(1) 児童生徒数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

【本校】

学部	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
小学部(知的)	9	12	8	6	10	14	59
小学部(肢体)	2	3	2	2	1	1	11
中学部(肢体)	3	2	2				7
高等部(肢体)	2	2	2				6
計	16	19	14	8	11	15	83

【分校】

学部	1 年	2 年	3 年	計
中学部(知的)	24	15	10	49
高等部(知的)	43	37	28	108
計	67	52	38	157

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）卒業生の進路状況

資料 4

【令和7年3月卒】

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
神戸	普通	282	7	8	1	16	314
	理数	89.8%	2.2%	2.5%	0.3%	5.1%	100.0%
飯野	応用デザイン	39	5	32	43	25	144
	英語コミュニケーション	27.1%	3.5%	22.2%	29.9%	17.4%	100.0%
白子	普通	58	16	49	51	3	177
	文化教養	32.8%	9.0%	27.7%	28.8%	1.7%	100.0%
	生活創造	0	0	11	23	1	35
石薬師	普通	7	2	14	72	2	97
		7.2%	2.1%	14.4%	74.2%	2.1%	100.0%
稲生	普通	18	6	32	96	2	154
	体育	11.7%	3.9%	20.8%	62.3%	1.3%	100.0%
亀山	普通	25	8	26	17	0	76
		32.9%	10.5%	34.2%	22.4%	0.0%	100.0%
	システムデザイン 総合生活	19	13	28	49	7	116
		16.4%	11.2%	24.1%	42.2%	6.0%	100.0%

普通科計 (普通科系専門学科を含む)	429	44	161	280	48	962
	44.6%	4.6%	16.7%	29.1%	5.0%	100.0%
専門学科計	19	13	39	72	8	151
	12.6%	8.6%	25.8%	47.7%	5.3%	100.0%
総合学科計	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	448	57	200	352	56	1,113
	40.3%	5.1%	18.0%	31.6%	5.0%	100.0%

【令和6年3月卒】

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
神戸	普通	240	12	10	4	9	275
	理数	87.3%	4.4%	3.6%	1.5%	3.3%	100.0%
飯野	応用デザイン	29	10	54	29	24	146
	英語コミュニケーション	19.9%	6.8%	37.0%	19.9%	16.4%	100.0%
白子	普通	48	16	53	44	5	166
	文化教養	28.9%	9.6%	31.9%	26.5%	3.0%	100.0%
	生活創造	2	4	18	12	2	38
石薬師	普通	6	1	14	74	1	96
		6.3%	1.0%	14.6%	77.1%	1.0%	100.0%
稲生	普通	22	7	39	107	10	185
	体育	11.9%	3.8%	21.1%	57.8%	5.4%	100.0%
亀山	普通	37	8	12	20	1	78
		47.4%	10.3%	15.4%	25.6%	1.3%	100.0%
	システムデザイン 総合生活	15	17	36	48	1	117
		12.8%	14.5%	30.8%	41.0%	0.9%	100.0%

普通科計 (普通科系専門学科を含む)	382	54	182	278	50	946
	40.4%	5.7%	19.2%	29.4%	5.3%	100.0%
専門学科計	17	21	54	60	3	155
	11.0%	13.5%	34.8%	38.7%	1.9%	100.0%
総合学科計	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	399	75	236	338	53	1,101
	36.2%	6.8%	21.4%	30.7%	4.8%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

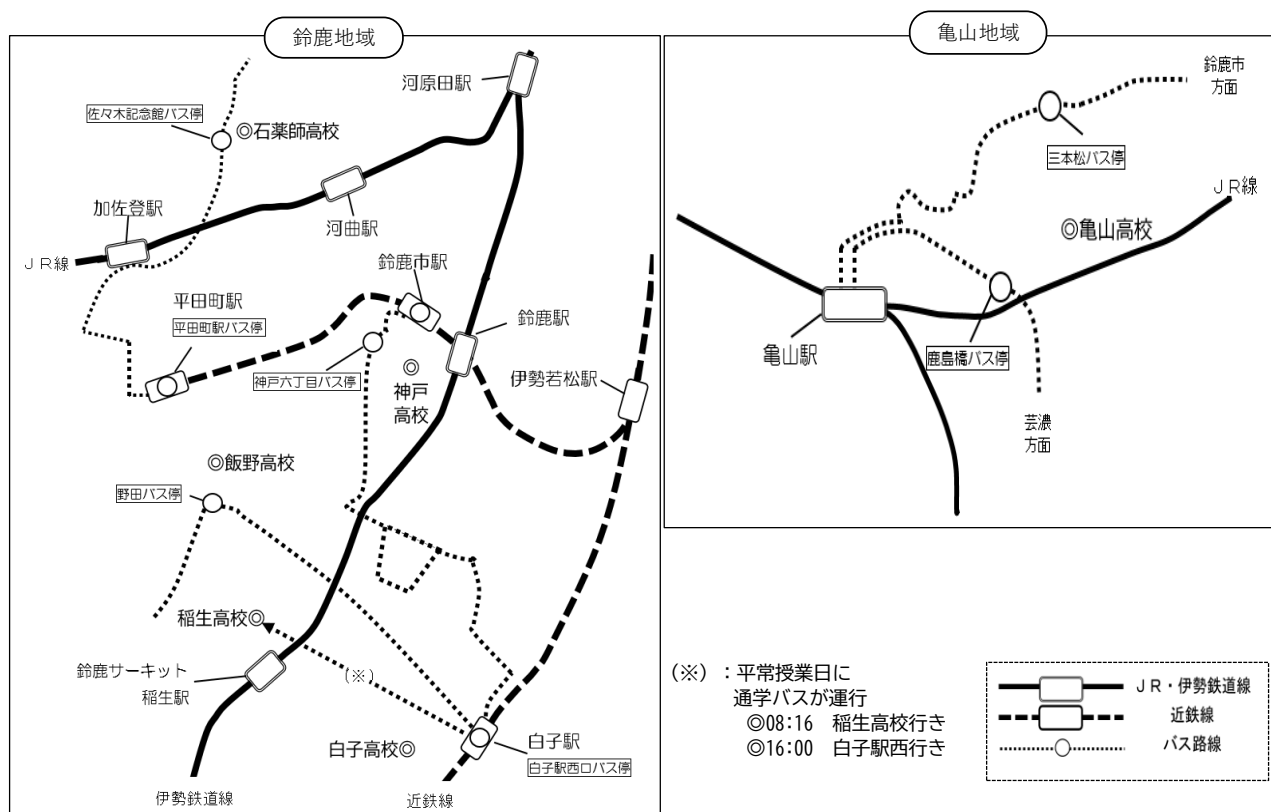
※「短大」は高専を含む

※「四年制大学」は大学校を含む

※「その他」は進学待機を含む

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への交通手段等

(1) 通学における主な路線図



(2) 通学方法別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

学校名		神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
通学方法	学校名	13	39	18	10	8	24	112
		1.5%	8.5%	2.5%	3.5%	1.7%	4.1%	3.3%
徒歩のみ		445	109	270	159	305	294	1,582
		51.0%	23.9%	36.9%	56.0%	66.2%	50.3%	46.7%
自転車のみ		3	0	0	0	0	0	3
		0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
JRのみ		14	13	3	22	27	67	146
		1.6%	2.8%	0.4%	7.7%	5.9%	11.5%	4.3%
私鉄のみ		164	117	227	0	5	1	514
		18.8%	25.6%	31.1%	0.0%	1.1%	0.2%	15.2%
バスのみ		21	22	6	13	0	27	89
		2.4%	4.8%	0.8%	4.6%	0.0%	4.6%	2.6%
JRと	私鉄	7	8	9	1	3	8	36
	バス	2	21	0	1	2	11	37
	自転車	50	7	2	39	36	102	236
私鉄と	バス	20	34	20	7	2	0	83
	単車	1	0	0	0	0	0	1
	自転車	119	65	157	8	48	1	398
バスと	自転車	2	7	4	11	5	23	52
	その他	11	15	15	13	20	26	100
合計		872	457	731	284	461	584	3,389

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
不要	461 52.9%	149 32.6%	295 40.4%	173 60.9%	321 69.6%	347 59.4%	1,746 51.5%	1,746 51.5%
3,000円以内	27 3.1%	17 3.7%	38 5.2%	22 7.7%	17 3.7%	37 6.3%	158 4.7%	1,904 56.2%
5,000円以内	220 25.2%	54 11.8%	208 28.5%	33 11.6%	18 3.9%	76 13.0%	609 18.0%	2,513 74.2%
7,000円以内	89 10.2%	109 23.9%	105 14.4%	26 9.2%	35 7.6%	38 6.5%	402 11.9%	2,915 86.0%
9,000円以内	27 3.1%	23 5.0%	9 1.2%	14 4.9%	16 3.5%	21 3.6%	110 3.2%	3,025 89.3%
11,000円以内	23 2.6%	35 7.7%	24 3.3%	4 1.4%	16 3.5%	22 3.8%	124 3.7%	3,149 92.9%
13,000円以内	7 0.8%	16 3.5%	15 2.1%	5 1.8%	9 2.0%	15 2.6%	67 2.0%	3,216 94.9%
15,000円以内	11 1.3%	19 4.2%	21 2.9%	0 0.0%	20 4.3%	12 2.1%	83 2.4%	3,299 97.3%
15,001円以上	7 0.8%	35 7.7%	16 2.2%	7 2.5%	9 2.0%	16 2.7%	90 2.7%	3,389 100.0%
合計	872	457	731	284	461	584	3,389	3,389

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計	積み上げ
15分以内	149 17.1%	40 8.8%	155 21.2%	24 8.5%	96 20.8%	93 15.9%	557 16.4%	557 16.4%
30分以内	309 35.4%	82 17.9%	255 34.9%	96 33.8%	170 36.9%	184 31.5%	1,096 32.3%	1,653 48.8%
45分以内	216 24.8%	56 12.3%	141 19.3%	73 25.7%	91 19.7%	145 24.8%	722 21.3%	2,375 70.1%
60分以内	147 16.9%	88 19.3%	115 15.7%	54 19.0%	67 14.5%	117 20.0%	588 17.4%	2,963 87.4%
90分以内	47 5.4%	135 29.5%	51 7.0%	27 9.5%	26 5.6%	38 6.5%	324 9.6%	3,287 97.0%
120分以内	4 0.5%	42 9.2%	10 1.4%	8 2.8%	6 1.3%	5 0.9%	75 2.2%	3,362 99.2%
121分以上	0 0.0%	14 3.1%	4 0.5%	2 0.7%	5 1.1%	2 0.3%	27 0.8%	3,389 100.0%
合計	872	457	731	284	461	584	3,389	3,389

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

種別 \ 学校名	神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	合計
下宿	0	3	9	0	0	0	12
寄宿舎	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	3	9	0	0	0	12

資料 6-①

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和7年度：現高1】

学校名	学科・コース	R7 入学 定員	R6.12 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
				定員との 差	募集人数	志願者数	合格内定者数	募集人数	志願者数	合格者数	募集人数	志願者数	合格者数		
神戸	普通	200	197	▲ 3				200	177	200				200	0
	理数	80	127	47	40	100	40	40	107	40				80	0
	計	280	324	44	40	100	40	240	284	240				280	0
飯野	応用 デザイン	80	84	4	80	83	80							80	0
	英語 コミュニケーション	80	77	▲ 3	40	75	44	36	35	34	2	3	2	80	0
	計	160	161	1	120	158	124	36	35	34	2	3	2	160	0
白子	普通	160	163	3	48	154	53	107	114	107				160	0
	文化教養 (吹奏楽)コース	40	46	6	40	45	40							40	0
	生活創造	40	47	7	20	46	22	18	28	18				40	0
	計	240	256	16	108	245	115	125	142	125				240	0
石薬師	普通	80	74	▲ 6	40	76	44	36	59	36				80	0
	計	80	74	▲ 6	40	76	44	36	59	36				80	0
稻生	普通	120	118	▲ 2	36	102	40	80	94	80				119	1
	体育	40	62	22	40	70	40							40	0
	計	160	180	20	76	172	80	80	94	80				159	1
亀山	普通	80	81	1	24	71	27	53	52	53				81	0
	システムメディア	80	107	27	40	94	44	36	45	36				80	0
	総合生活	40	37	▲ 3	20	40	22	18	19	18				40	0
	計	200	225	25	84	205	93	107	116	107				201	0
地域内県立高校 計		1,120	1,220	100	468	956	496	624	730	622	2	3	2	1,120	1

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R6.12進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された調査結果

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和6年度：現高2】

学校名	学科・コース	R6 入学 定員	R5.12 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学者 数	欠員
				定員との 差	募集人数	志願者数	合格内定者数	募集人数	志願者数	合格者数	募集人数	志願者数	合格者数		
神戸	普通	240	211	▲ 29				240	170	240				239	1
	理数	80	142	62	40	119	41	39	153	39				80	0
	計	320	353	33	40	119	41	279	323	279				319	1
飯野	応用 デザイン	80	90	10	80	91	80							80	0
	英語 コミュニケーション	80	79	▲ 1	40	84	43	37	41	37				80	0
	計	160	169	9	120	175	123	37	41	37				160	0
白子	普通	200	204	4	60	165	66	134	143	134				201	0
	文化教養 (吹奏楽)コース	40	35	▲ 5	40	39	39				1	0	0	39	1
	生活創造	40	31	▲ 9	20	30	22	18	19	18				40	0
	計	280	270	▲ 10	120	234	127	152	162	152	1	0	0	280	1
石薬師	普通	120	79	▲ 41	36	75	38	82	77	75	7	14	7	120	0
	計	120	79	▲ 41	36	75	38	82	77	75	7	14	7	120	0
稻生	普通	120	136	16	36	135	40	80	98	80				120	0
	体育	40	62	22	20	61	22	18	24	18				40	0
	計	160	198	38	56	196	62	98	122	98				160	0
亀山	普通	80	91	11	24	78	27	53	63	53				80	0
	システムメディア	80	86	6	40	85	44	36	36	36				80	0
	総合生活	40	40	0	20	41	22	18	22	18				40	0
	計	200	217	17	84	204	93	107	121	107				200	0
地域内県立高校 計		1,240	1,286	46	456	1003	484	755	846	748	8	14	7	1,239	2

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R5.12進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された調査結果

令和7年度の協議について

1 令和6年度までの協議

令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」に基づき、統合についての協議も行うとされている1学年3学級以下の高校がある鈴鹿亀山地域についても、令和5年度に協議会を設置し、地域の高校の学びと配置のあり方についての協議を進めてきました。

○ 令和5年度第1回協議会（令和6年1月24日）

「県立高等学校活性化計画」や、中学校卒業者数の減少の状況等をふまえ、当地域において15年先に求められる（実現したい）学びや高校のあり方、今後の協議を深めていくための視点などについて協議しました。

○ 令和6年度第1回協議会（令和6年7月29日）

引き続き、当地域において15年先に実現したい学びや高校のあり方について協議しました。また、地域の中学生や保護者を対象としたアンケート調査の質問内容や実施方法等について検討しました。

○ 令和6年度第2回（令和6年12月9日）

これまでの協議や中学生と保護者へのアンケート結果をふまえながら、当地域において15年先に実現したい学びや高校のあり方、令和10年度以降に想定される県立高校の学級減への具体的な対応の方向性について協議を行いました。

○ 令和6年度第3回（令和7年2月18日）

引き続き、これまでの協議やアンケート結果をふまえながら、当地域における高校の学びと配置のあり方の方向性、令和10年度以降に想定される学級減への具体的な対応について協議を行いました。

2 令和7年度の協議の進め方

今年度の協議会では、引き続き、地域の県立高校を取り巻く状況や現状、15年先の中学校卒業者数の減少をふまえ、地域の高校の学びと配置のあり方について協議を進めます。

特に、令和10年度に当地域の1学年あたりの総学級数が2学級程度減少することが見込まれることから、この具体的な対応について、中学3年生が高校を選択する時期をふまえ、今年の12月までに協議会としての方向性をとりまとめることとします。

今後の協議会開催スケジュール（4回開催）

○ 第1回協議会（令和7年7月10日）

- ・ 鈴鹿亀山地域の高校を取り巻く状況について
- ・ 15年先の鈴鹿亀山地域の高校の学びと配置のあり方について

○ 第2回協議会（令和7年8～9月頃）

- ・ 令和10年度の学級減への具体的な対応について①

○ 第3回協議会（令和7年9～10月頃）

- ・ 令和10年度の学級減への具体的な対応について②
- ・ 「協議のまとめ」（案）について

○ 第4回協議会（令和7年10～11月頃）

- ・ 「協議のまとめ」について

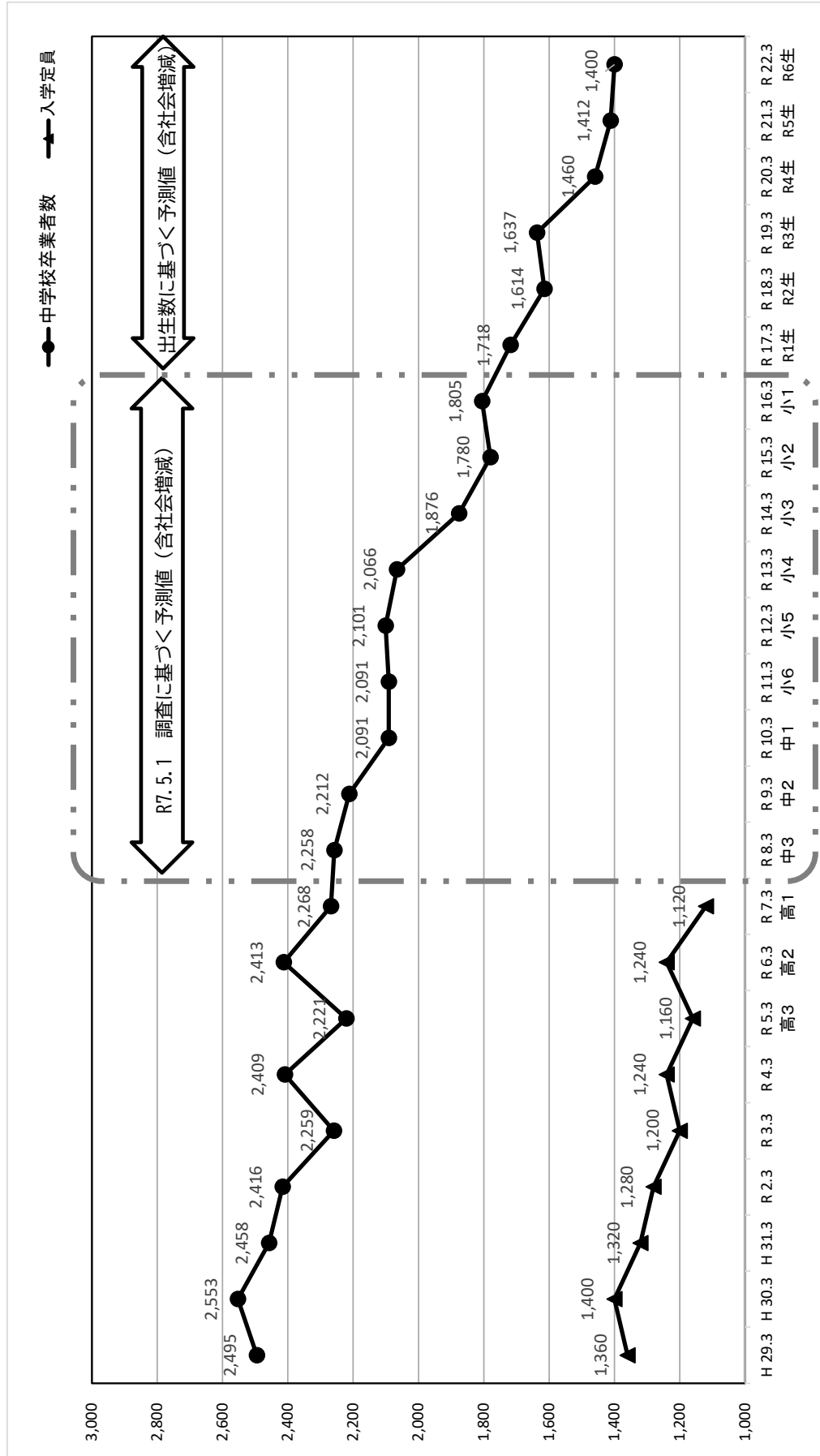
鈴鹿亀山地域中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和7年5月1日 教育政策課調べ

	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
鈴鹿市	卒業生数	1,988	1,798	1,973	1,808	1,775	1,777	1,639	1,667	1,636	1,471	1,400	1,395
	前年度対比		-190	175	-165	-33	2	-138	28	-15	-165	-71	-5
	R7.3対比					-33	-31	-169	-141	-172	-337	-408	-413
亀山市	卒業生数	421	423	440	460	483	435	452	424	430	405	380	410
	前年度対比		2	17	20	23	-48	17	-28	-20	-25	-25	30
	R7.3対比					23	-25	-8	-36	-30	-55	-80	-50
小計	卒業生数	2,409	2,221	2,413	2,268	2,258	2,212	2,091	2,091	2,066	1,876	1,780	1,805
	前年度対比		-188	192	-145	-10	-46	-121	0	-35	-190	-96	25
	R7.3対比					-10	-56	-177	-177	-202	-392	-488	-463
県内合計	卒業生数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-14	-631	-646	-345
	R7.3対比				0	-201	-457	-911	-1,373	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

鈴鹿亀山地域中学校卒業者と県立高等学校（全日制）入学定員の推移と予測

資料9



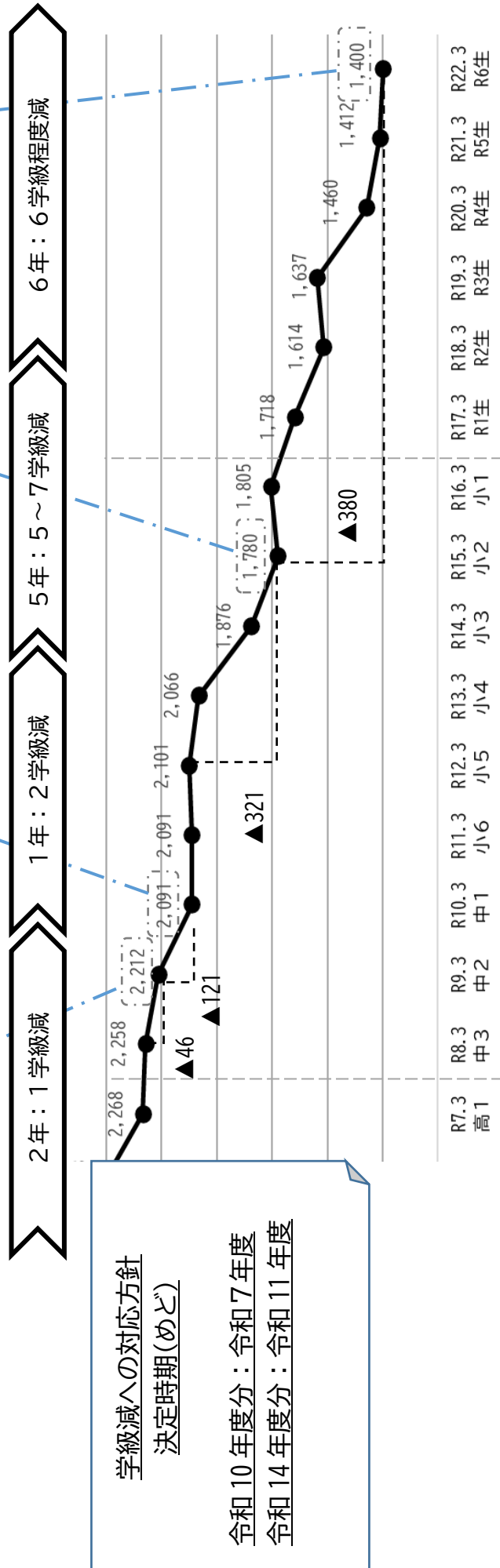
【鈴鹿亀山地域の出生数】

	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳	
鈴鹿市	1,507	1,508	1,376	1,400	1,306	1,211	1,199
亀山市	411	343	359	360	269	307	306
合計	1,918	1,851	1,735	1,760	1,575	1,518	1,505

令和 22 年度までの鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

令和 7 年度 (現高 1) 地域の中学校卒業数 2,268 人 (前年度比 ▲145) 募集定員 1,120 人	令和 9 年度 (現中 2) 地域の中学校卒業予定者数 2,212 人 (R7 年度比 ▲56)	令和 10 年度 (現中 1) 地域の中学校卒業予定者数 2,091 人 (R7 年度比 ▲177)	令和 15 年度 (現小 2) 地域の中学校卒業予定者数 1,780 人 (R7 年度比 ▲488)	令和 22 年度 地域の中学校卒業予定者数 1,400 人 (R7 年度比 ▲868)
---	---	---	---	--

28 学級		27 学級程度		25 学級程度		18～20 学級程度		12～14 学級程度	
神戸高校	(普 7)	鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)		鈴鹿亀山地域の 県立高校 (全日制)	
飯野高校	(普 4)								
白子高校	(普 5・専 1)								
石薬師高校	(普 2)								
稻生高校	(普 4)								
亀山高校	(普 2・専 3)								



鈴鹿亀山地域の中学校卒業生進路先の推移

資料11

鈴鹿亀山地域の状況

	卒業 年度	卒業 者数	鈴鹿亀山地域（全日制）										地域外（全日制）					定時制・通信制			その他
			県立							私立・高専		合計	県立			県内 私立・ 高専	県外	県内		県外	
			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	計	鈴鹿	鈴鹿 高専		四日市 地域	津 地域	その他 地域			定時制	通信制		
2市 の 合 計	R7.3 卒	2,268	195	64	142	72	128	160	761	277	60	1,098	375	299	54	119	40	69	78	70	66
		100%	8.6%	2.8%	6.3%	3.2%	5.6%	7.1%	33.6%	12.2%	2.6%	48.4%	16.5%	13.2%	2.4%	5.2%	1.8%	3.0%	3.4%	3.1%	2.9%
	R6.3 卒	2,413	235	66	160	100	130	153	844	339	49	1,232	325	338	46	147	36	64	95	68	62
		100%	9.7%	2.7%	6.6%	4.1%	5.4%	6.3%	35.0%	14.0%	2.0%	51.1%	13.5%	14.0%	1.9%	6.1%	1.5%	2.7%	3.9%	2.8%	2.6%
	R5.3 卒	2,221	202	72	128	83	129	166	780	290	49	1,119	323	315	40	152	29	47	80	56	60
		100%	9.1%	3.2%	5.8%	3.7%	5.8%	7.5%	35.1%	13.1%	2.2%	50.4%	14.5%	14.2%	1.8%	6.8%	1.3%	2.1%	3.6%	2.5%	2.7%
	R4.3 卒	2,409	229	73	141	83	145	167	838	299	54	1,191	355	344	52	167	43	57	73	72	55
		100%	9.5%	3.0%	5.9%	3.4%	6.0%	6.9%	34.8%	12.4%	2.2%	49.4%	14.7%	14.3%	2.2%	6.9%	1.8%	2.4%	3.0%	3.0%	2.3%

市別の状況

	卒業 年度	卒業 者数	鈴鹿亀山地域（全日制）										地域外（全日制）					定時制・通信制			その他
			県立							私立・高専		合計	県立			県内 私立・ 高専	県外	県内		県外	
			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山	計	鈴鹿	鈴鹿 高専		四日市 地域	津 地域	その他 地域			定時制	通信制		
鈴鹿市	R7.3卒	1,808	180	53	141	57	115	67	613	245	54	912	314	209	26	91	29	59	60	54	54
	R6.3卒	1,973	217	58	160	80	122	69	706	304	41	1,051	265	255	30	115	29	50	73	56	49
	R5.3卒	1,798	180	62	126	66	113	81	628	259	43	930	271	237	26	121	24	37	64	45	43
	R4.3卒	1,988	203	61	139	66	134	72	675	275	46	996	318	276	34	126	39	45	56	53	45
亀山市	R7.3卒	460	15	11	1	15	13	93	148	32	6	186	61	90	28	28	11	10	18	16	12
	R6.3卒	440	18	8	0	20	8	84	138	35	8	181	60	83	16	32	7	14	22	12	13
	R5.3卒	423	22	10	2	17	16	85	152	31	6	189	52	78	14	31	5	10	16	11	17
	R4.3卒	421	26	12	2	17	11	95	163	24	8	195	37	68	18	41	4	12	17	19	10

【 R 7. 3 中学校卒業生（現高 1）の鈴鹿亀山地域全日制高校以外への進路先】

*鈴鹿亀山地域外（全日制） 合計 887 人

- ・ 四日市地域県立 (375人) 四日市工(105)、四日市南(80)、四日市商(61)、四日市農(43)、四日市(40)、四日市西(17)、四日市中央工(9)、四日市四郷(7)、菰野(5)、川越(5)、朝明(3)、
- ・ 津地域県立 (299人) 津工(87)、津商(85)、津東(46)、津西(39)、津 (33)、久居農(8)、久居(1)
- ・ その他地域県立 (54人) あけぼの学園(17)、桑名(14)、伊賀白鳳(4)、昂学園(4)、上野(3)、松阪工(3)、桑名北(2)、相可(2)、桑名西(1)、桑名工業(1)、いなべ総合(1)、宇治山田商業(1)、伊勢工業(1)
- ・ 県内私立・高専 (119人) 海星(43)、高田(43)、三重(8)、鳥羽商船(7)、近大高専(5)、暁(4)、四日市メリノール学院(4)、津田学園(3)、皇学館(1)、青山(1)
- ・ 県外 (40人) 県外国公立全日制(5)、県外私立全日制(35)

*定時制・通信制・その他 合計 283 人

- ・ 県内定時制 (69人) 飯野(43)、みえ夢(15)、北星(7)、四工(4)
- ・ 県内通信制 (78人) 大橋学園(42)、北星(17)、徳風(16)、松阪(1)、四日市メリノール学院(1)、代々木(1)
- ・ 県外通信制 (70人) 県外通信制(70)
- ・ その他 (66人) 就職・専修学校・その他(34)、特別支援学校(32)

鈴鹿亀山地域の県立高等学校（全日制）への入学状況

【令和7年3月卒】

単位：人

			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山
募集定員			280	160	240	80	160	200
県内 在住 地域	地域内	鈴鹿市	180	58	141	57	117	67
		亀山市	15	7	1	15	13	95
	地域外	四日市地域	60	35	36	5	11	5
		津地域	23	35	34	3	12	27
		その他地域	2	25	24	0	6	7
	県外・その他			0	0	4	0	0
入学者計			280	160	240	80	159	201
欠員			0	0	0	0	1	0
地域内入学者計			195	65	142	72	130	162
割合			69.6%	40.6%	59.2%	90.0%	81.8%	80.6%
地域外入学者計			85	95	98	8	29	39
割合			30.4%	59.4%	40.8%	10.0%	18.2%	19.4%

【令和6年3月卒】

単位：人

			神戸	飯野	白子	石薬師	稲生	亀山
募集定員			320	160	280	120	160	200
県内 在住 地域	地域内	鈴鹿市	217	58	160	80	122	69
		亀山市	18	8	0	20	8	84
	地域外	四日市地域	56	46	50	13	8	2
		津地域	27	31	51	5	13	35
		その他地域	1	10	12	1	9	9
	県外・その他			0	7	7	1	0
入学者計			319	160	280	120	160	200
欠員			1	0	0	0	0	0
地域内入学者計			235	66	160	100	130	153
割合			73.7%	41.3%	57.1%	83.3%	81.3%	76.5%
地域外入学者計			84	94	120	20	30	47
割合			26.3%	58.8%	42.9%	16.7%	18.8%	23.5%

鈴鹿亀山地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問6)

「学校の雰囲気・イメージ」(53.1%)、「通学のしやすさ・距離」(50.5%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(47.6%)、「学びたい学科やコースがある」(39.1%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる」(38.8%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.0%)、「基本的な知識が身につく教育」(48.0%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(46.9%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(42.0%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問10)

多い順に「4～6学級」(47.9%)、「2～3学級」(32.3%)、「1学級」(13.4%)、続いて「7学級以上」(6.4%)となっている。

(4) 通学時間について (問11)

多い順に「60分以内まで」(54.0%)、「30分以内まで」(22.5%)、「90分以内まで」(16.8%)、「120分以内まで」(3.5%)、「121分以上」(3.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について (問12)

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%)が最も多く、続いて、「県外」(20.0%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(13.5%)、「地元」(12.3%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学びたい学科やコースがあること」(69.6%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(69.3%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(58.7%)に続いて、「学校の雰囲気・イメージ」(41.8%)となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

「自ら学び続ける力が身につく教育」と「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(58.5%)をはじめ、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(50.4%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.6%)を期待している。

(3) 学級の規模について（問10）

多い順に「4～6学級」(53.7%)、「2～3学級」(28.2%)、「1学級」(11.3%)、続いて「7学級以上」(6.8%)となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」(70.7%)、「30分以内まで」(19.2%)、「90分以内まで」(9.0%)、「120分以内まで」(1.1%)、「121分以上」(0.1%)となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「本人の希望次第」(72.4%)が最も多く、続いて、「地元」(10.3%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(5.0%)、「特に考えはない」(3.3%)となっている。

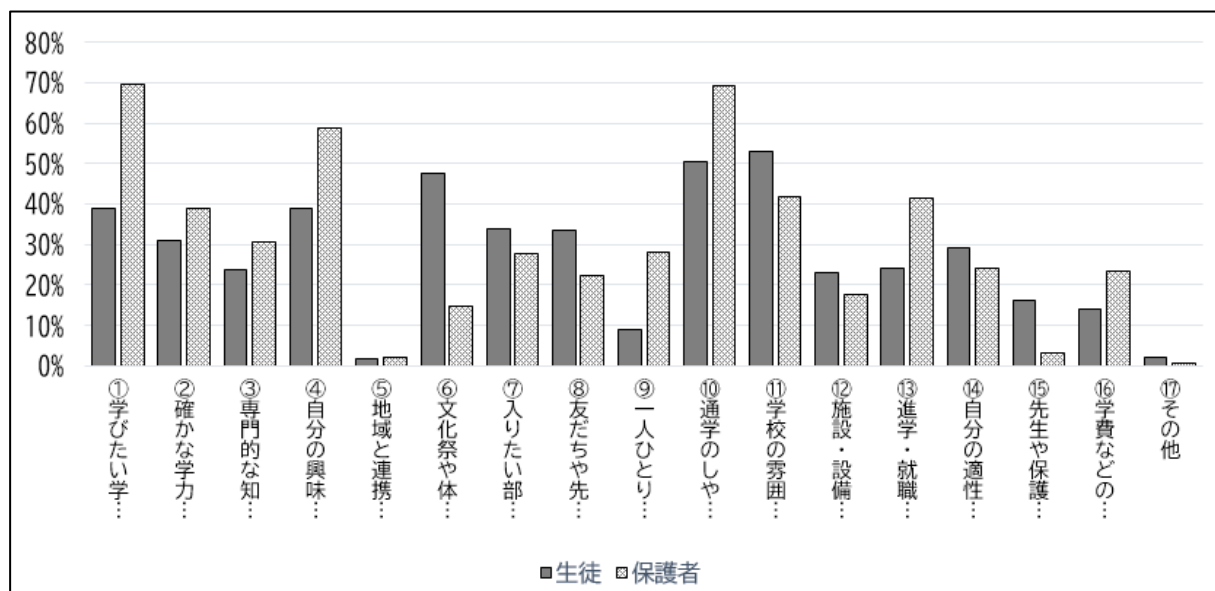
(6) 今後の鈴鹿亀山地域の県立高校のあり方について

今後の鈴鹿亀山地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(71.8%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(22.3%)、「積極的に統合を進めるべき」(5.9%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

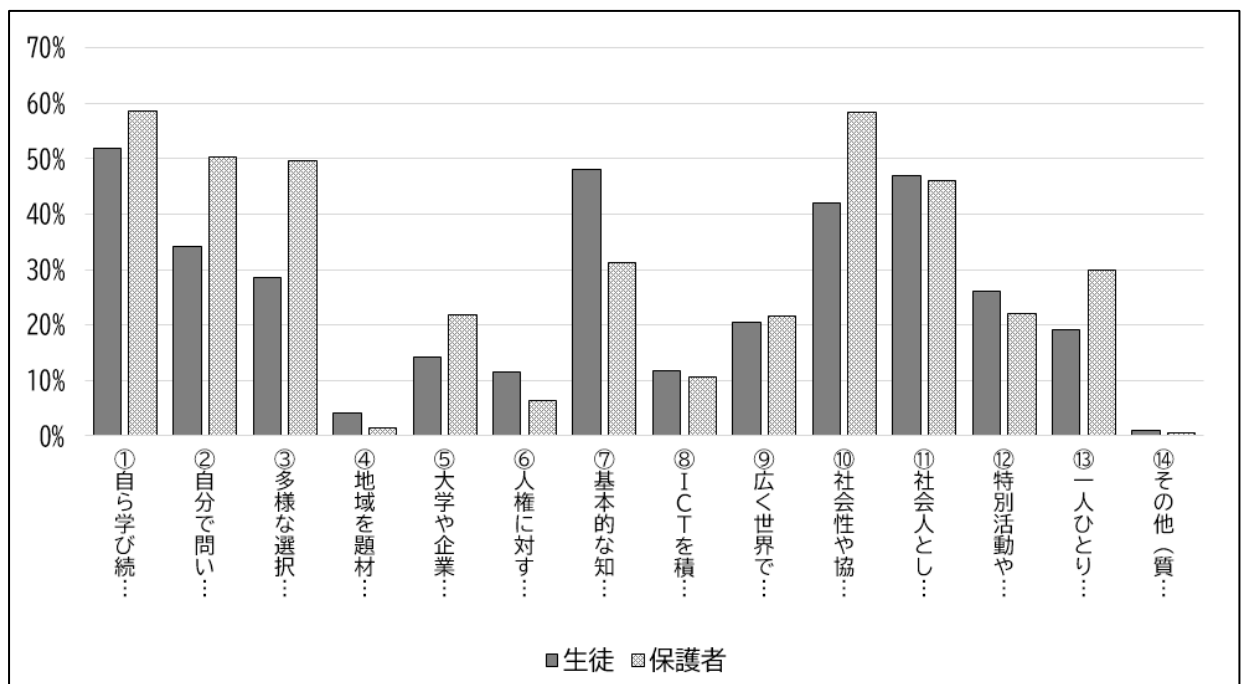
(1) 高校選びに重視すること（回答は6つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目	対象	生徒 (1,730人)	保護者 (1,960人)
① 学びたい学科やコースがある	④	676 39.1%	① 1,366 69.6%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑧	539 31.2%	⑥ 764 38.9%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑪	411 23.8%	⑦ 603 30.7%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑤	671 38.8%	③ 1,151 58.7%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑰	29 1.7%	⑱ 43 2.2%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	824 47.6%	⑭ 288 14.7%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑥	586 33.9%	⑨ 541 27.6%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑦	581 33.6%	⑫ 437 22.3%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	153 8.8%	⑧ 555 28.3%
⑩ 通学のしやすさ・距離	②	874 50.5%	② 1,359 69.3%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	①	919 53.1%	④ 821 41.8%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	400 23.1%	⑬ 349 17.8%
⑬ 進学・就職の実績	⑩	419 24.2%	⑤ 815 41.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	503 29.1%	⑩ 475 24.2%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	278 16.1%	⑮ 61 3.1%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	244 14.1%	⑪ 457 23.3%
⑰ その他（質問7の自由記述へ）	⑯	35 2.0%	⑰ 11 0.6%



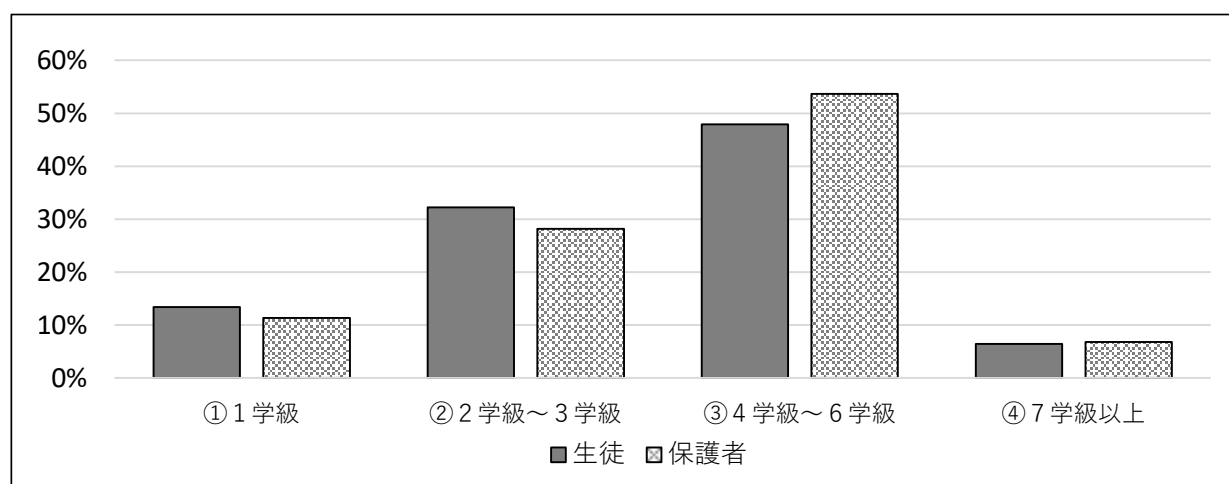
(2) 高校に期待する教育（回答は5つ以内、％は各回答者数に対する割合、○数字は多い順）

項目	対象		生徒 (1,730人)	保護者 (1,962人)
① 自ら学び続ける力が身につく教育	①	899	52.0%	① 1,148 58.5%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤	590	34.1%	③ 988 50.4%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑥	496	28.7%	④ 974 49.6%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬	72	4.2%	⑬ 29 1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩	247	14.3%	⑨ 428 21.8%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫	199	11.5%	⑫ 126 6.4%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	②	831	48.0%	⑥ 615 31.3%
⑧ ICTを積極的に活用する教育	⑪	202	11.7%	⑪ 210 10.7%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧	354	20.5%	⑩ 424 21.6%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④	727	42.0%	② 1,147 58.5%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③	811	46.9%	⑤ 905 46.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑦	453	26.2%	⑧ 431 22.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨	332	19.2%	⑦ 586 29.9%
⑭ その他（質問9の自由記述へ）	⑭	19	1.1%	⑭ 11 0.6%



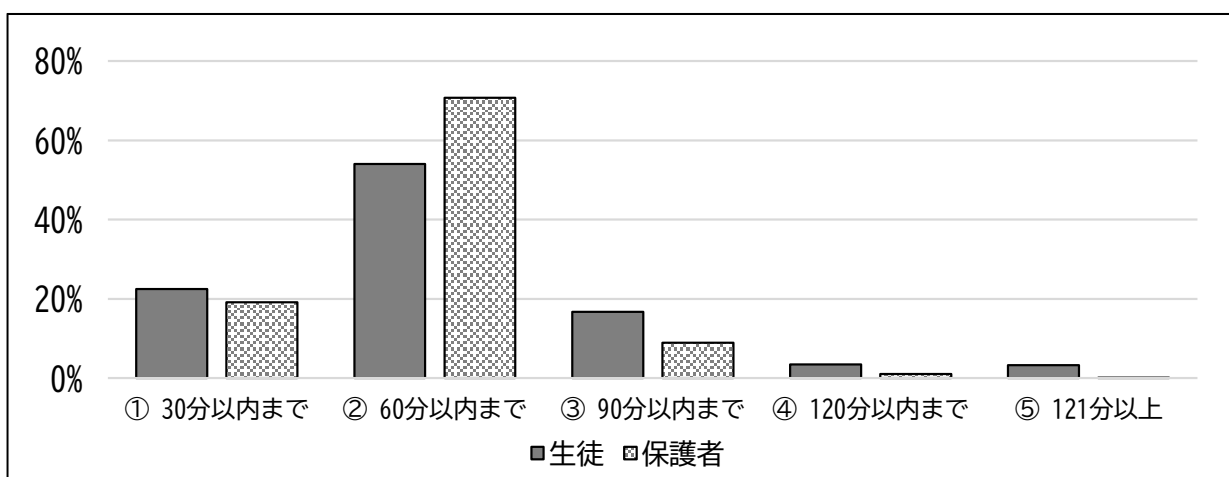
(3) 1学年当たりの学級規模 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,730人)		保護者 (1,962人)	
① 1学級 (40人)	③ 232	13.4%	③ 222	11.3%
② 2学級～3学級 (80～120人)	② 558	32.3%	② 553	28.2%
③ 4学級～6学級 (160～240人)	① 829	47.9%	① 1,053	53.7%
④ 7学級以上 (280人～)	④ 111	6.4%	④ 134	6.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,730人)		保護者 (1,962人)	
① 30分以内まで	② 389	22.5%	② 376	19.2%
② 60分以内まで	① 935	54.0%	① 1,387	70.7%
③ 90分以内まで	③ 290	16.8%	③ 176	9.0%
④ 120分以内まで	④ 60	3.5%	④ 21	1.1%
⑤ 121分以上	⑤ 56	3.2%	⑤ 2	0.1%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒4位 676人(39.1%)、保護者1位 1,366人(69.6%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒5位 671人(38.8%)、保護者3位 1,151人(58.7%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒2位 874人(50.5%)、保護者2位 1,359人(69.3%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒1位 919人(53.1%)、保護者4位 821人(41.8%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒8位 539人(31.2%)、保護者6位 764人(38.9%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 824人(47.6%)、保護者14位 288人(14.7%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒6位 586人(33.9%)、保護者9位 541人(27.6%)

⑬進学・就職の実績

生徒10位 419人(24.2%)、保護者5位 815人(41.5%)

〈参考〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒17位 29人(1.7%)、保護者16位 43人(2.2%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 153人(8.8%)、保護者8位 555人(28.3%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 278人(16.1%)、保護者15位 61人(3.1%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両者で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 899人(52.0%)、保護者1位 1,148人(58.5%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 590人(34.1%)、保護者3位 988人(50.4%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 727人(42.0%)、保護者2位 1,147人(58.5%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 811人(46.9%)、保護者5位 905人(46.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒6位 496人(28.7%)、保護者4位 974人(49.6%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒2位 831人(48.0%)、保護者6位 615人(31.3%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒13位 72人(4.2%)、保護者13位 29人(1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒12位 199人(11.5%)、保護者12位 126人(6.4%)

(3) 「1学年あたりの学級規模(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「4学級～6学級」(生徒47.9%、保護者53.7%)と最も多く、次いで「2学級～3学級」(生徒32.3%、保護者28.2%)、「1学級」(生徒13.4%、保護者11.3%)、「7学級以上」(生徒6.4%、保護者6.8%)となっている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間(1つ選択)」について

生徒、保護者とも「60分以内まで」(生徒54.0%、保護者70.7%)、「30分以内まで」(生徒22.5%、保護者19.2%)と続き、さらに「90分以内まで」(生徒16.8%、保護者9.0%)、「120分以内まで」(生徒3.5%、保護者1.1%)となっている。

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

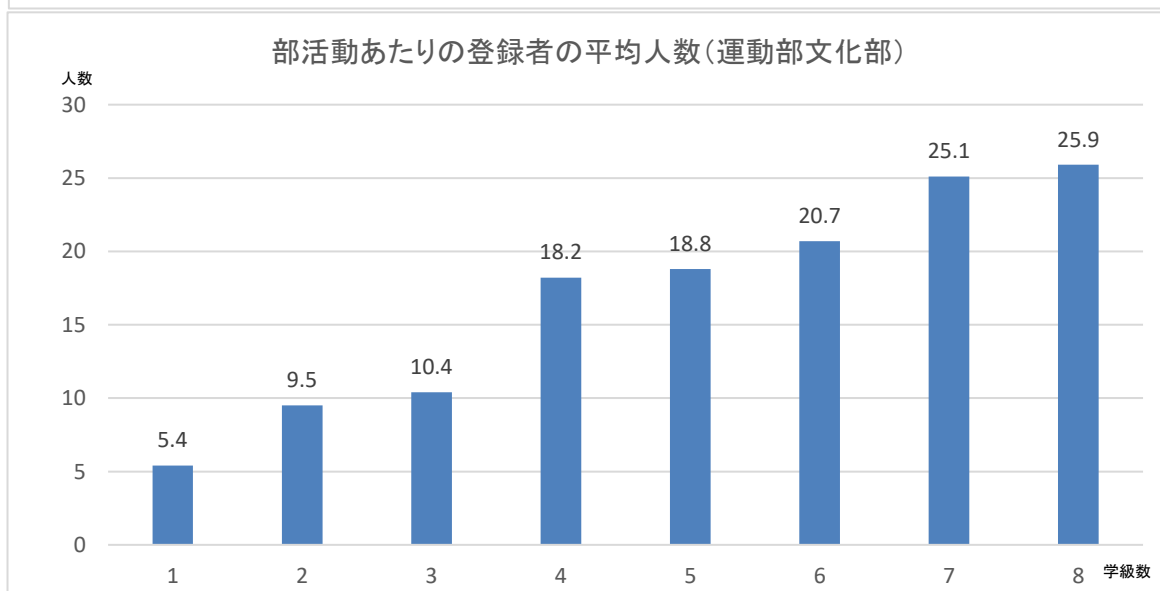
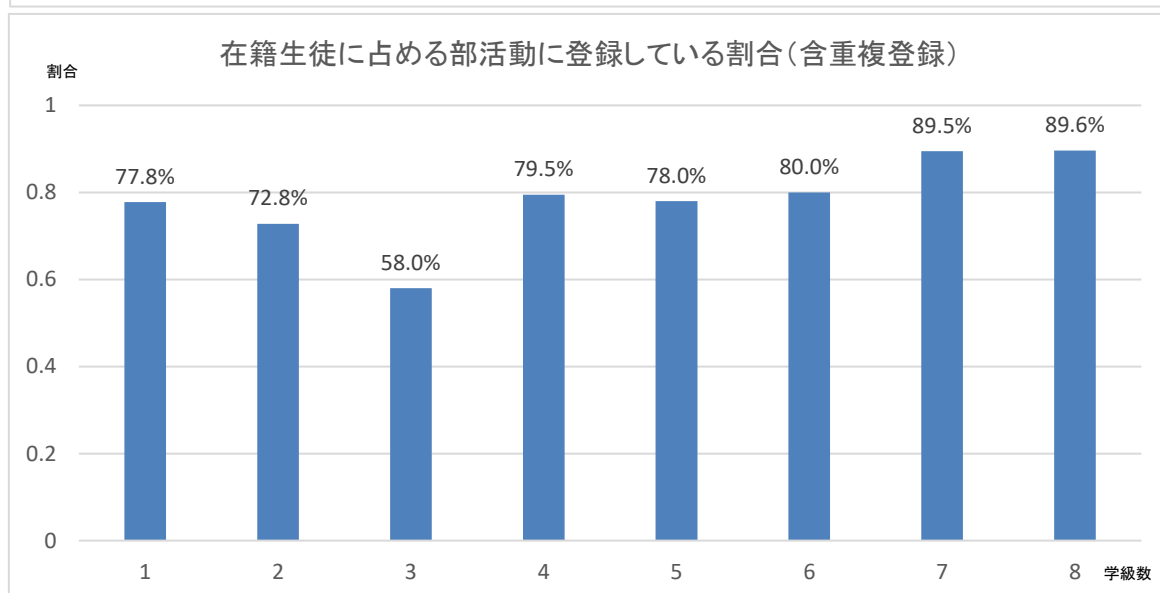
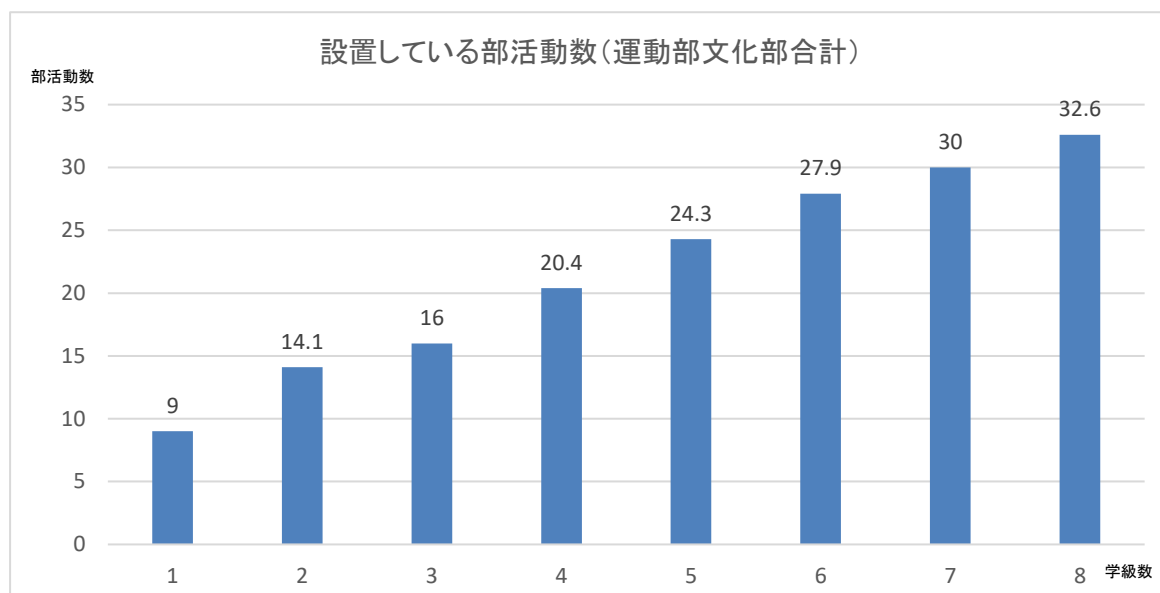
※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

○ 1 学年あたりの学級数別の部活動の状況（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



鈴鹿亀山地域における工業の学びに係る状況について

1 稲生高校普通科自動車工業コースの状況

工業に関する 科目の単位数	16／90 単位 (2年：6単位、3年：10単位)
開設する 工業科目名 ※(学)は学校設定科目	・工業技術基礎 ・生産技術 ・自動車工学 ・自動車整備 ・企業実習(学)
主な実習設備等	・普通旋盤 1台 ・炭酸ガス半自動溶接機 1台 ・分解整備組立用エンジン 8台 ・整備用自動車 2台
取得実績のある 資格	・ガス溶接技能講習修了試験 ・危険物取扱者試験乙種第4類 ・アーク溶接特別教育講習修了資格
企業実習先 インターンシップ先	・ホンダカーズ三重北(鈴鹿市内4店舗) - 他 鈴鹿市内製造業 8社
令和6年度卒業生における 主な進路実績 (自動車関連・地元製造業)	・トヨタ自動車株式会社 ・三重いすゞ自動車株式会社 ・株式会社ホンダ四輪販売三重北 ・住友電装株式会社 ・株式会社エフテック ・株式会社ヨシザワ
技術指導体制	・現役自動車整備士を講師として招聘 ・企業実習により技術者から直接指導

※工業科においては、3年間で工業に関する科目を25単位以上修得することが必要

(参考) 四日市工業高校自動車科は、3年間でコースにより36単位または40単位修得することが可能

※令和7年度は3年生15名、2年生16名が自動車コースを選択

2 鈴鹿亀山地域に隣接する四日市・津地域の工業科における入学者選抜の状況（後期選抜）

高校名	学科・コース名	R5			R6			R7		
		後期選抜 募集人数	志願者数	志願倍率	後期選抜 募集人数	志願者数	志願倍率	後期選抜 募集人数	志願者数	志願倍率
四日市工業	機械	18	23	1.28	18	21	1.17	18	22	1.22
	電子機械	18	14	0.78	18	20	1.11	18	30	1.67
	電気	18	18	1.00	18	19	1.06	18	21	1.17
	電子工学	18	27	1.50	18	19	1.06	18	21	1.17
	建築	18	22	1.22	18	14	0.78	18	23	1.28
	物質工学	18	23	1.28	18	18	1.00	18	25	1.39
	自動車	18	15	0.83	18	26	1.44	18	29	1.61
	学校計	126	142	1.13	126	137	1.09	126	171	1.36
四日市中央工業	機械	18	16	0.89	18	20	1.11	18	30	1.67
	電気	20	13	0.65	18	18	1.00	18	17	0.94
	化学工学	18	9	0.50	18	13	0.72	18	19	1.06
	都市工学	18	14	0.78	18	14	0.78	18	18	1.00
	設備システム	18	16	0.89	18	19	1.06	18	18	1.00
	学校計	92	68	0.74	90	84	0.93	90	102	1.13
津工業	機械	54	48	0.89	54	63	1.17	54	58	1.07
	電気	18	19	1.06	18	18	1.00	18	23	1.28
	電子	18	19	1.06	19	17	0.89	18	16	0.89
	建設工学	18	14	0.78	18	18	1.00	18	19	1.06
	学校計	108	100	0.93	109	116	1.06	108	116	1.07
総 計		326	310	0.95	325	337	1.04	324	389	1.20

志願倍率 3年平均

1.06

これまでの協議について

これまでの協議における主な意見（●：R6年度第3回における意見）

【鈴鹿亀山地域の高等学校の現状について】

- 普通科のコースでは、専門教科の授業や実習が少ないため、専門学科と比較するとどうしても知識や技能に差が生じてしまう。また、当地域の事業所からは、おそらくこれまでに就職実績がある事業所や地元の事業所が優先されるためか、四日市市や津市の工業高校、商業高校に求人を出しても、生徒の応募がなく、人手不足であると聞いている。
- 当地域の県立高校の学びの選択肢がこのままであれば、15年先までかなりの学級数を減らさざるを得ない。しかし、四日市地域や津地域の専門高校へ一定数の生徒が流出していることをふまえると、鈴鹿市内の高校に工業、商業、農業などの職業系の専門学科を設置することで、学級数の減少を抑えることができるのではないかと。市内の事業所からも人手不足であるという声が大きくなっており、ぜひ設置を検討してほしい。
- 鈴鹿亀山地域の中学校卒業者の約4割が地域外の全日制高校へ進学しており、特に、当地域に設置されていない工業科や商業科へ一定数の生徒が進学している。そのため、これら職業系専門学科が当地域に設置されれば、子どもたちの地域外への移動が少なくなり、学級減の必要もなくなるのではないかと。
- 普通科のコースの充実では、専門学科の学びと比べ、どうしても実習をはじめとした専門的な授業の時間が少なくなる。就職後、すぐに役立つスキルを身につけてもらうために、より専門性の高い学びが行われる職業系専門学科を設置してほしい。
- 当地域に専門高校をつくったとしても、他地域の実績のある専門高校を上回る魅力がなければ、近いというだけで生徒は選んでくれないだろう。
- 少子化の中では、新たな専門学科の設置は難しいところもあるため、それぞれの県立高校は地域のニーズをふまえて特色化・魅力化に取り組んでいる。例えば、稲生高校の普通科では、6つのコースを設置し専門学科に近い学びを提供している。
- 工業高校を設置するには、施設整備のために多額の予算が必要となる。少子化が進む中にあるのは、既存の学科・コースの学びに予算を投入し、時代のニーズに沿った専門性の高い学びを充実させるほうがよいのではないかと。
- 工業をはじめとする専門性の高い学びの充実は必要であり、普通科におけるコースの設置や他校との連携、資格取得の取組等、さまざまな方策を検討してほしい。
- 大学進学を考えている中学生の多くが、四日市地域や津地域の普通科高校へ進学している。当地域の子どもたちを地域に残していくための取組をするべきではないかと。例えば、当地域に公立の中高一貫教育校を設置するのも、ニーズがあれば1つの選択肢になりうるのではないかと。
- 令和2年度に就学支援金制度が拡充されたことにより、県立高校と私立高校の経済的負担の差が小さくなったため、生徒は学校の特色をより重視して高校を選ぶようになっている。県立高校の学びと配置のあり方については、私学の状況もふまえて総合的に考える必要がある。

【部活動について】

- アンケートでは高校の部活動に期待する声も大きいですが、中学校において部活動の地域移行についての議論が進められる中、高校の部活動を今後どうしていくのかについても重要な課題となるのではないかと。

- 部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の1つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまうよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。

【当地域の県立高校に求められる学びについて】

- 地元経済界としては、社会人としてのマナーや基本的な生活習慣を身につけてもらった上で、DXに関わる教育や金融教育に力を入れてもらいたい。
- 保護者としては、大学進学や就職など、子どもたちの進路実現につながる学びを重視してもらいたい。
- アンケート結果を見ると、子どもたちは学校行事や部活動など、授業以外の活動にも期待していることがうかがえる。こうした子どもたちの思いをふまえ、地域のイベントに参加したり、協力したりするなど、地域社会とのつながりの中での学びがより充実することを期待したい。
- 中学校段階で、将来の進路を明確に決めるのは難しい生徒も多いため、稲生高校の普通科のように、多様なコースの中から、入学後に自分の興味関心に応じてコースを選択できるのは大きな魅力となっている。また、工業や商業などの専門学科と同じような資格取得が可能となれば、より魅力が高まるのではないかと。専攻科の設置など、当地域の魅力や特徴を生かした新しい取組を検討してみてもどうか。
- アンケート結果を見ると、少子化の中にあっても子どもや保護者の希望は今も昔も大きくは変わらないように感じる。学級減に伴う教員数の減少を補うため、オンラインで学校間をつないで授業を行ったり、大学との連携を進めて、大学生との交流を増やしたりしてはどうか。

【地域との関わりについて】

- 地元の高校で学んだ生徒が、地元就職することも大切であるが、他地域の高校で学んだ生徒や県外の大学に進学した生徒が、地元に戻って働きたいと思ったり、それを実現できたりする仕組みづくりも必要である。
- 人の役に立ちたい、地域の力になりたいと思っている地元志向が強い中学生は多い。四日市地域や津地域へ進学する生徒も一定数いるものの、当地域の各県立高校のニーズは高いと感じている。
- 地元で働きたいと考えている子どもたちに対し、将来、地域での活躍につながる特色のある学科を設置したり、地域の大学と連携して、高校から大学まで一貫した教育を進めていったりするといった方向性も考えられるのではないかと。
- 小学生にとって高校生は憧れの存在であるため、高校生が小学生に専門性を生かした出前授業をしてくれたり、地域の行事で輝いている高校生の姿を小学生が見たりする機会を増やせると、地域の高校に進学したいと思う子どもたちを増やすことができるのではないかと。

【多様な子どもたちの状況と学習環境への対応について】

- 全国的に不登校の児童生徒が増加していることから、中学校までにしっかりと学ぶことができなかった子どもたちの学び直しの場も高校には必要ではないかと。
- 当地域の小中学校には外国につながる子どもたちが多く在籍していることから、高校においても、外国につながる生徒を受け入れ、学びを支えていくという視点が大切である。

- 小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者からは、特別支援学校の高等部ではなく、県立高校への進学を考えた場合、選択肢が限られるという声を聞く。特別な支援を必要とする子どもたちや外国につながるのある子どもたち、不登校の子どもたちが増えている中で、こうした子どもたちが高校で安心して学べる教育環境を保障してほしい。
- 不登校など学校に行きづらい子どもたちが増えている中で、多様な学びを保障するためにも、定時制・通信制のあり方や、学びの多様化学校のような学校の設置を考えてもよいのではないか。
- 小中学校を含め外国につながるのある子どもたちに関わる教育は、当地域の強みであり、こうした子どもたちが他地域からも集まるような高校をつくるのも一つのアイデアである。

【交通に係る課題について】

- 亀山市から鈴鹿市内の高校へは交通の便がよくないため、亀山高校かＪＲ沿線の四日市市や津市の高校を選択する生徒が多い。鈴鹿市内の高校へ通いたいと思う子どもたちのために、路線バスの経路の見直しや通学バスの運行などの支援をお願いしたい。
- 鈴鹿市と亀山市がそれぞれ独自で運行するコミュニティバスについて、市を越えて連携させ、鈴鹿・亀山間の交通の利便性の向上が図られるよう、当協議会から行政へ提言することを検討してはどうか。
- 鈴鹿市と亀山市のコミュニティバスの連携が進めば、通学だけでなく地域経済の活性化にもつながることから、県と市の交通行政が協力して進めていく必要がある。

【学校規模について】

- 小規模な高校では、生徒一人ひとりに丁寧な指導が行き届くというメリットがあると聞いている。一方で、いじめ等があった場合に、クラス替えが難しいなど、生徒の安心できる場の確保が難しく、その結果、退学を選択せざるをえなくなるケースがあるとも聞いている。統合や学級減を検討する際には、いじめ防止の観点からも慎重に考えてほしい。
- アンケート結果から、小規模校を望む声は一定数あるため、仮に再編することになったとしても、小規模校で行ってきた学びは、地域の高校で引き継いでいく必要がある。
- 学校規模が大きくなると教員数も増えるため、多様な選択科目を開講できたり、学校行事や部活動が活発になったりする。子どもたちがさまざまな選択ができるという点においては、統合によるスケールメリットは大きいと感じている。
- 国公立大学や難関私立大学への進学ニーズに応える一定規模の普通科高校が当地域に必要であり、各教科の教員数などをふまえると、理想は１学年８学級、最低でも６学級はあったほうがよい。
- 大学進学へのニーズに対応する普通科高校は８学級、最低でも６学級程度の規模は必要であり、それを維持するために統合が必要というのであれば、ぜひ校舎を新築し、魅力のある学校をつくってほしい。
- 参考資料をみると、部活動の充実という視点では、１学年４学級以上の規模が必要である。

【今後の県立高校のあり方について】

- 令和１０年度以降も中学校卒業生数はさらに減少していくことを見据え、県立高校の学びと配置のあり方を考えていく必要がある。また、令和７年度中に、協議会としての一定の結論を出すためにもスケジュール感を持って協議を進める必要がある。

- 15 年先に 1 学年の総学級数が 13～15 学級となることが想定される中、普通科の一定規模の維持や多様な学びの選択肢の維持、部活動の活性化などを考えると、当地域の高校は 2～3 校程度に集約されるのではないかと。今後、学校数と学級数のバランスに留意して協議を進めていく必要がある。
- 当地域の高校の統廃合や学級減を考える際には、他地域の職業系専門学科への進学をどう捉えるのかを議論する必要がある。
- 中学生のニーズから、当地域に大学進学に対応する一定規模の普通科高校は必要であるが、過去の生徒急増期に普通科の定員を大きく増やしたことを考え、普通科を中心に定員を減らし、多様な子どもたちの学びを保障しつつ、学びを集約していく方向になるのではないかと。
- 中学校段階で自身の進路が明確となっている子どもは少なく、高校に入ってから自分のやりたいことを見つけないという生徒が多い。そのため、再編したとしてもオーソドックスな普通科は残してほしい。
- 現在、県内全域から生徒が入学している特色のある学科は、今後も当地域に残したほうがよい。
- これまで小規模校が果たしてきた役割は大きく、学級数が減ったとしてもその機能は残していく必要がある。
- 現在の高校が、それぞれの特色を生かして存続できるとよいと思う一方で、通学時間を考慮する必要があるが、統合してよりよい学校ができるのであれば、それでよいとも感じている。
- 高校ではある程度の学級数がないと充実した教育そのものが難しくなることが想定される。当地域は、他地域と比べると小規模の高校が多いことから、通学環境も考慮して、近鉄沿線に高校を統合していくのがよいのではないかと。
- 通学時間は子どもたちにとって重要であり、鉄道など公共交通機関の利便性を考えると、どの場所に集約していくとよいのかは見えてくるのではないかと。
- アンケート結果を見ると、小学校、中学校、高校と校種があがるにつれて、だんだんと大きな集団の中で学び、多種多様な選択肢から自分にあったものを選んで社会に出ていくといった教育環境が求められているのは、今も昔も変わらないと感じる。こうした環境を維持するため、これまでに統合を行った高校のその後についての検証も行いながら、当地域の高校の再編について検討を進めてほしい。
- アンケート結果から、「積極的に統合すべき」、「一定の統合は避けられない」という回答が 7 割を超えており、当地域でも県立高校 6 校の再編も含めた検討を進めていかなければならない。
- 今後、統合を行う際には、今ある学びをそのまま残すのではなく、よりよい形で残すという発想が大切であり、時代にあわせて学びを充実させたり、新しい設備等に予算を投入したりして、魅力化を図ってほしい。

今後の鈴鹿亀山地域における高等学校の学びと配置のあり方について

これまでの協議やアンケート結果をふまえ、以下のように整理しました。

1 鈴鹿亀山地域において実現したい学びや育みたい力

- ・ 自ら学び続ける力
- ・ 社会性やコミュニケーション能力
- ・ 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力
- ・ 多様な選択肢の中から、自ら進路を決定する力
- ・ 将来、地域産業を支える人材や地域で活躍する人材の育成につながる学び
- ・ 地域社会とのつながりの中で育まれる学び
- ・ これからの時代に必要とされる能力を育む学び（DXなど）

2 今後の学びと配置のあり方の検討の方向性（下線は前回の意見をふまえ加筆した部分）

- ・ 令和 10 年度以降の学級減への対応については、15 年先までの中学校卒業者数の減少をふまえたものとする。
- ・ 今ある学びをそのまま残すのではなく、よりよい形で充実させるという発想を大切にする。
- ・ 当地域には職業系専門学科が少ないことから、普通科のコースを含め、専門性の高い学びや多様な学びの選択肢の維持・充実を図る。
- ・ 大学進学ニーズに応える普通科高校が地域には必要であり、できるだけ規模を維持し、充実を図る。具体的には、1 学年あたり 8 学級あることが望ましく、また、地域全体の学級数が減少する中、やむを得ず学校規模を縮小する場合も、1 学年 6 学級を下回らないようにすることが望ましい。
- ・ 部活動の活性化や学校行事の充実のためには、一定の学校規模があることが望ましく、部活動の活性化のためには、1 学年あたり 4 学級以上あることが望ましい。
- ・ 外国につながるのある生徒や特別な支援を必要とする生徒、不登校を経験した生徒など、多様な生徒が安心して学べる学習環境を実現する。
- ・ 多様なニーズに対応するため、全日制課程だけでなく、定時制や通信制課程のあり方も含めて検討する。
- ・ 通学方法や通学時間など、通学に係る状況を考慮する。通学時間については概ね 90 分以内、できれば 60 分以内となることが望ましい。

3 1 学年あたり 12～14 学級となることが想定される 15 年先の学びと配置のイメージ

- ・ 「2 今後の学びと配置のあり方の検討の方向性」をふまえると、現在の 6 校は、2～3 校程度へと集約される。
- ・ 当地域内の通学環境を考慮すると、亀山市内の 1 校は、周辺地域のニーズに応える小規模校として存続される。
- ・ 鈴鹿市内の 5 校は、大学進学ニーズに応える高校と専門性の高い学びを含めた多様な学びを提供する 2 校へと集約される。